

IRミーティング

平成30年 8 月期第2四半期決算説明資料



株式会社 ジー・スリーホールディングス
<http://www.g3holdings.com/>

平成30年4月25日（水） 15時30分～
日本証券アナリスト協会
東京都中央区日本橋兜町3-3 兜町平和ビル3F

本日の会社側出席者

株式会社ジー・スリーホールディングス

代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO グループ事業統括） 奥田 泰司
代表取締役兼最高管理責任者（CFO グループ管理統括） 長倉 統己

株式会社エコ・ボンス

株式会社エコ・テクノサービス

代表取締役社長 香藤 紘一

株式会社S B Y

株式会社Green Micro Factory

代表取締役社長 奥田 泰司

当社グループの概要



G Three Holdings

<http://www.g3holdings.com/>

株式会社ジー・スリーホールディングス（コード：3647 東証第二部）

本 社	東京都品川区東品川2-3-14東京フロントテラス20F
資本金	876百万円
事業目的	グループ各社の経営管理及び経営戦略、並びに再生可能エネルギー分野への投資事業
役 員	代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO グループ事業統括）：奥田 泰司 代表取締役兼最高管理責任者（CFO グループ管理統括）：長倉 統己 取締役：香藤 紘一 社外取締役監査等委員（取締役会議長・独立役員）：名越 陽子（弁護士） 社外取締役監査等委員（独立役員）：松山 昌司（公認会計士） 社外取締役監査等委員（独立役員）：本間 周平（公認会計士）
役職員数	19名

ジー・スリーホールディングスグループの概要



G Three Holdings



<http://www.ecobonds.co.jp/>

株式会社エコ・ボンス（100%子会社）

本 社	東京都品川区東品川2-3-14東京フロントテラス20F
資本金	10百万円
事業目的	再生可能エネルギー等環境関連事業
役 員	代表取締役社長 香藤紘一 取締役 遠藤洋
役職員数	5名



<http://www.eco-techno.co.jp/>

株式会社エコ・テクノサービス（100%子会社）

本 社	東京都品川区東品川2-3-14東京フロントテラス20F
資本金	10百万円
事業目的	アフターメンテナンス、土木・電気工事、開発関連事業
役 員	代表取締役社長 香藤紘一 取締役 田名部充
役職員数	3名



<http://www.sby.co.jp/>
<http://shop.sby.co.jp/>

株式会社SBY（100%子会社）

本 社	東京都品川区東品川2-3-14東京フロントテラス20F
資本金	65百万円
事業目的	コンセプトマーケティングショップ運営、ビジネス・アライアンス事業
役 員	代表取締役社長 奥田泰司 取締役 阿世知義徳 取締役 近藤恵理子
役職員数	36名 ※アルバイト従業員含む

ジー・スリーホールディングスグループの概要



G Three Holdings



<http://www.greenmicrofactory.co.jp/>

株式会社Green Micro Factory（100%子会社）

本 社	東京都品川区東品川2-3-14東京フロントテラス20F
資本金	10百万円
事業目的	飲食店の企画・設計・運営、農業・林業・漁業及び畜産業並びに水産・魚介の養殖
役 員	代表取締役社長 奥田泰司 取締役 遠藤洋 取締役 ニコラヴィエルジュ
役職員数	68名 ※アルバイト従業員含む

BIZInfo

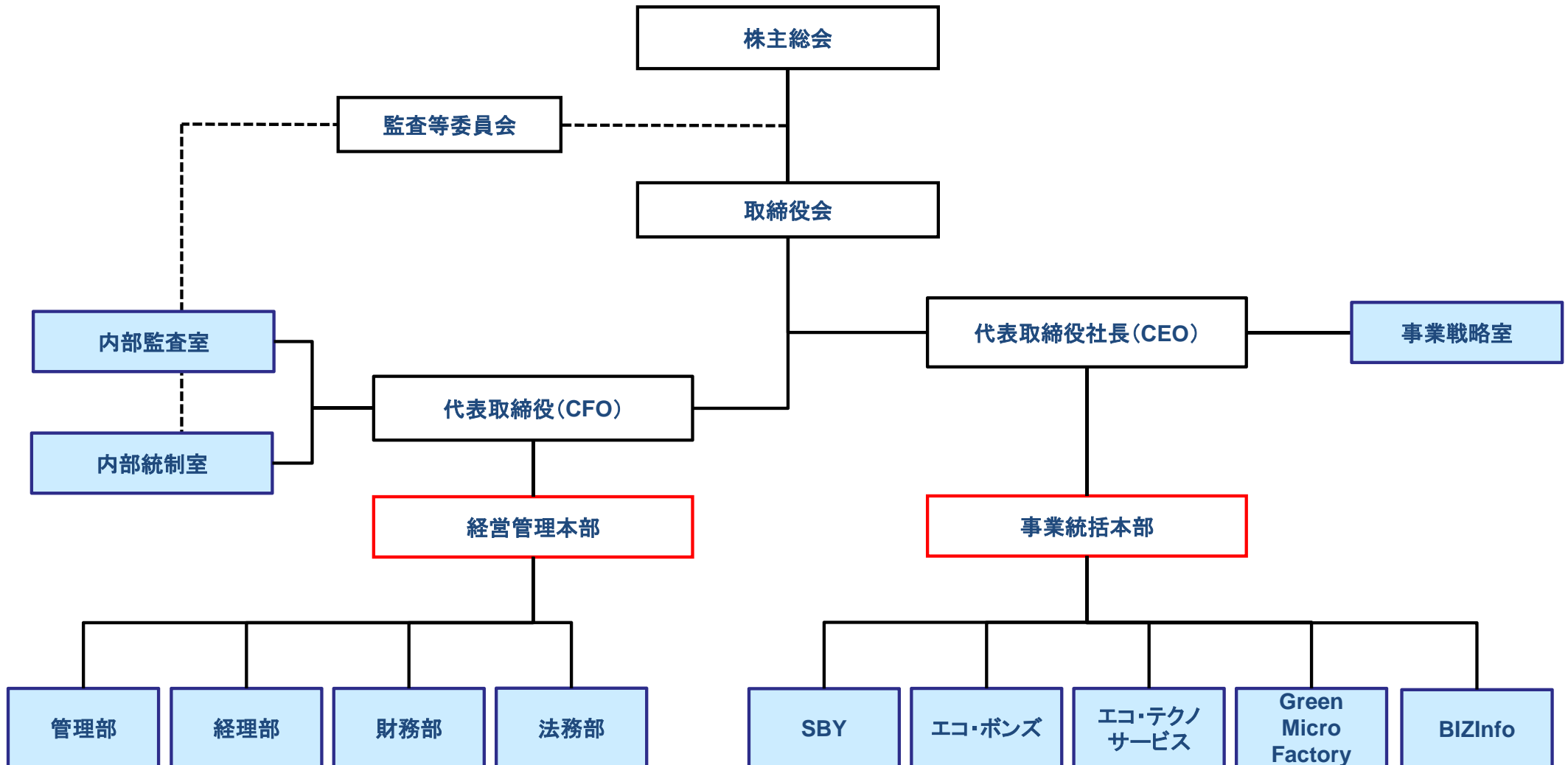
株式会社BIZInfo（100%子会社）

本 社	東京都品川区東品川2-3-14東京フロントテラス20F
資本金	10百万円
事業目的	市場調査・顧客調査・企業調査の企画・実施
役 員	代表取締役社長 北山恵理子
役職員数	2名

◆沿革

■ (株) コネクトテクノロジーズ
・平成12年5月 (株)コネクトテクノロジーズ設立
・平成16年3月 東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場
■ (株) コネクトホールディングス
・平成23年3月 純粋持株会社として(株)コネクトホールディングスを設立、株式移転により東証マザーズへ上場
・平成23年3月 (株)SBYをM&Aにより子会社化
・平成26年11月 (株)エコ・ボンズを設立により子会社化
・平成27年1月 東京証券取引所市場第二部へ市場変更
■ (株) ジー・スリーホールディングス
・平成28年1月 (株)コネクトホールディングスより商号変更
・平成28年11月 (株)エコ・テクノサービスを設立により子会社化
・平成28年12月 東京都品川区東品川二丁目3番14号東京フロントテラスに本社及びグループ会社移転
・平成30年2月 (株)Green Micro Factoryを設立により子会社化
・平成30年2月 (株)BIZInfoを設立により子会社化

グループ組織図（平成30年4月1日現在）



株主の状況（平成30年2月28日現在）



G Three Holdings

◆株主総数・発行済株式総数

株主総数	発行済株式総数
13,187名	79,968,601株

◆大株主の状況

	株主名	持株数	持株比率
1	UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	2,839,200株	3.55%
2	奥田泰司（当社代表取締役社長兼CEO）	2,750,000株	3.43%
3	株式会社サンライフコーポレーション	2,500,000株	3.12%
4	株式会社プラザ開発	2,500,000株	3.12%
5	株式会社J Tコンサルティング	2,200,000株	2.75%
6	日本証券金融株式会社	1,444,600株	1.80%
7	長倉統己（当社代表取締役兼CFO）	1,200,000株	1.50%
8	UBS AG LONDON ASIA EQUITIES	952,000株	1.19%
9	廣田証券株式会社	834,598株	1.04%
10	香藤紘一（当社取締役）	650,000株	0.81%

※別途、当社は自己株式 7,714,000 株を保有しております。

◆所有者別状況

	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等	個人・その他	計
所有割合（%）	2.40	5.10	9.78	6.24	76.48	100.00

平成30年8月期IRトピックス①



G Three Holdings

適時開示	IRトピックス
平成30年4月13日	2018年8月期 第2四半期報告書
平成30年4月11日	平成30年8月期 第2四半期累計期間業績予想と実績値との差異に関するお知らせ
平成30年4月11日	平成30年8月期 第2四半期決算短信【日本基準】（連結）
平成30年4月11日	当社子会社による太陽光発電所用地の売却に関するお知らせ
平成30年3月28日	当社子会社による太陽光発電所の取得に関するお知らせ
平成30年3月22日	当社子会社による投資型クラウドファンディングの募集結果、及びファットバーガー日本一号店場所の決定に関するお知らせ
平成30年2月26日	当社子会社によるファットバーガー日本一号店のための投資型クラウドファンディングの利用に関するお知らせ
平成30年2月22日	（開示事項の経過）「株式併合及び定款の一部変更」の中止に関するお知らせ及び、株式併合の中止に伴う平成30年8月期配当予想の修正に関するお知らせ
平成30年2月22日	未着工太陽光発電所の売却に伴う子会社の異動に関するお知らせ
平成30年2月22日	連結子会社からの配当金受領に関するお知らせ
平成30年2月16日	「株式併合及び定款一部変更」の中止に関するお知らせ
平成30年2月7日	子会社の異動（新設）及び新規事業の開始に関するお知らせ
平成30年1月22日	主要株主の異動に関するお知らせ
平成30年1月12日	譲渡制限付株式報酬としての新株式の払込完了に関するお知らせ
平成30年1月12日	2018年8月期 第1四半期報告書
平成30年1月10日	平成30年8月期 第1四半期決算短信
平成29年12月21日	譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行に関するお知らせ
平成29年11月30日	2017年8月期 有価証券報告書
平成29年11月28日	支配株主等に関する事項について
平成29年11月10日	第7期定時株主総会招集のご通知

平成30年8月期IRトピックス②

適時開示	IRトピックス
平成29年11月10日	第7期定時株主総会招集のご通知に際してのインターネット開示事項
平成29年10月20日	その他の関係会社の異動に関するお知らせ
平成29年10月13日	平成29年8月期 決算短信【日本基準】（連結）
平成29年10月13日	当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要に関するお知らせ
平成29年10月13日	公認会計士等の異動に関するお知らせ
平成29年10月13日	取締役（監査等委員である取締役を除く）候補者の決定に関するお知らせ
平成29年10月13日	株式併合及び定款の一部変更に関するお知らせ
平成29年9月28日	配当予想の修正（増配）に関するお知らせ
平成29年9月28日	連結業績予想の修正に関するお知らせ
平成29年9月28日	株主優待制度の廃止に関するお知らせ
平成29年9月22日	野田樹潤選手が所属するNODAレーシングコンサルタンツ株式会社との業務委託契約の締結に関するお知らせ

平成30年8月期第2四半期業績概況



当社グループは、事業子会社の株式を100%保有し、グループ全体の経営戦略及び管理業務（財務・経理・総務・人事・情報システム）を担うとともに、事業部門として、再生可能エネルギー関連分野における投資効率を踏まえた資産運用の観点から環境関連事業を展開する株式会社ジー・スリーホールディングス（以下、「当社」という。）と、太陽光発電所に係るID等権利の売買、事業開発及び太陽光発電商材の販売により環境関連事業を展開する株式会社エコ・ボンズ（以下、「エコ・ボンズ」という。）、及びオペレーション及びメンテナンスにより環境関連事業を展開する株式会社エコ・テクノサービス（以下、「エコ・テクノサービス」という。）、並びに店舗展開を中心としたコンセプトマーケティングショップ及びプロデュース、ディレクション、プロモーションや自社マスターライセンスのビューティ&コスメブランドにてビジネスアライアンスによるSBY事業を展開している株式会社SBY（以下、「SBY」という。）からなるグループ体制をとっています。

当社グループを取巻く環境として、当社、エコ・ボンズ、及びエコ・テクノサービスが展開する環境関連事業については、経済産業省による固定価格買取制度の見直しを受け、太陽光発電事業者の選別淘汰が進むとともに、未着工及び稼働済太陽光発電所の買取需要が増大し、セカンダリー市場の形成が進む等、インフラ投資を踏まえた今後の市場拡大が期待されています。

SBYが展開するSBY事業は、訪日外国人観光客の増加によるインバウンド消費の拡大は依然として続いており、サービス・小売業を中心とした経済効果が見込まれています。

このような環境の中、当第2四半期連結累計期間における連結業績につきましては、連結売上高は1,259百万円（前年同四半期比22.7%増）、連結営業利益は225百万円（前年同四半期比233.3%増）、連結経常利益は157百万円（前年同四半期比122.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は99百万円（前年同四半期比169.7%増）と、売上高及び利益とも前年同期を大幅に上回りました。

当第2四半期累計期間における個別業績につきましては、売上高は603百万円（前年同四半期比162.9%増）、経常利益は247百万円（前年同四半期比89.2%増）、四半期純利益は196百万円（前年同四半期比81.5%増）と、売上高及び利益とも前年同期比を大幅に上回りました。

環境関連事業は、当社、エコ・ボンス、及びエコ・テクノサービスにて展開しております。

当社は、エネルギー関連分野における投資効率を踏まえた資産運用の観点から、太陽光発電所の保有による電力会社に対する売電事業、未着工及び稼働済太陽光発電所の買取事業、並びに太陽光発電運用会社への投資を行うことをビジネスモデルとして展開しています。

エコ・ボンスは、太陽光発電用地に加え、固定価格買取制度の適用を受けるための経済産業省による設備認定、及び電気事業法に規定する一般電気事業者（電力会社）からの許認可による発電事業者の権利（発電設備を電力会社の電力系統に接続する権利）を取得することで、用地及び認定・権利を運用会社に売却あるいは賃貸し、併せて運用会社への太陽光発電事業のコンサルティング、及び事業開発、また太陽光電池モジュール及び周辺機器等太陽光発電商材の販売を行うことをビジネスモデルとして展開しています。

エコ・テクノサービスは、当社が運営、又はエコ・ボンスが運用会社に売却あるいは賃貸する再生エネルギー発電所について、稼働後20年間に亘り安定した発電事業を運営できるように、最新の技術と専門技術者によるオペレーション及びメンテナンス並びに障害対応事業を行うことをビジネスモデルとして展開しています。

当第2四半期連結累計期間においては、当社が保有し運営を行っている太陽光発電所6カ所の売電収入及び太陽光発電所の売却、並びにエコ・ボンスによる太陽光電池モジュール及び周辺機器等太陽光発電商材の販売収入を計上しております。

この結果、環境関連事業の売上高は921百万円（前年同四半期比61.6%増）、セグメント利益（営業利益）は425百万円（前年同四半期比164.2%増）と、売上高及びセグメント利益とも前年同期比を大幅に上回りました。

コンセプトマーケティングショップ及びビジネスアライアンスによるS B Y事業は、S B Yにて展開しております。

S B Yは、C2（13～19歳）及びF1（20～34歳）層の女性を主なターゲットとして日本を代表する流行最先端都市「渋谷」= S B Y（SHIBUYA）をブランドネームとし、その中核店舗は「アタラシモノ発見☆カフェ」をコンセプトにSHIBUYA109で運営しており、訪日外国人観光客の増加によるインバウンド消費の拡大にも恩恵を受けています。

コンセプトマーケティングショップにおいては、「S B Y」として4店舗（渋谷、阿倍野、博多、鹿児島）、及び「WoMANiA」として1店舗（梅田）、アウトレットショップ1店舗（幕張）を展開しています。

コンセプトマーケティングショップは単なる店舗販売事業ではなく、最先端の情報が揃う店舗型の情報発信スペースであり、流行に敏感な女性の心を掴み、夢中にさせる総合エンターテインメントを追求することにより、S B Yから生まれた情報・商品がメディアや流通等のインフラに乗り、全国へ/世界へ発信されています。

また、S B Yは、独自に収集分析するトレンド情報を活用し、主にC2（13～19歳）及びF1（20～34歳）層の女性を主なターゲットとして事業を展開している企業を総合的にプロデュースするプラットフォームを提供しています。

当第2四半期連結累計期間においては、コンセプトマーケティングショップの基幹店である渋谷店の収益は堅調に推移するも、地方店の売上が見込みより減少するとともに、S B Yがライセンスを供与し、小売店にて販売されているDiamond Lash（つけまつげ）は、依然として業界TOPシェアを維持しているものの、国内市場の落ち込みの影響からロイヤリティ収入が減少しております。

このため、当第2四半期連結累計期間から、積極的な広告宣伝を展開するとともに、Diamond Lashにおいては、ライセンス供与による売上方法のみならず、国内外の卸先に対する直接販売も行うこととしておりますが、収益計上は第3四半期以降を予定しております。

この結果、S B Y事業の売上高は338百万円（前年同四半期比25.9%減）、セグメント損失（営業損失）は53百万円（前年同四半期はセグメント利益3百万円）となりました。

平成30年8月期第2四半期累計 連結P/Lサマリー



G Three Holdings

	平成30年8月期第2四半期累計実績			前四半期累計実績
	金額(百万円)	増減額(百万円)	増減率(%)	金額(百万円)
売上高	1,259	232	22.7	1,026
売上総利益	595	185	45.2	409
販管費	369	27	8.1	342
営業利益	225	157	233.3	67
経常利益	157	86	122.4	70
親会社に帰属する当期純利益	99	62	169.7	36

連結売上高につきましては、環境関連事業が増収となったことから、SBY事業の減収を踏まえても、前年同四半期比で22.7%増（232百万円増収）と増加いたしました。

連結営業利益につきましては、連結売上高の増加により、前年同四半期比では233.3%増（157百万円増益）と大幅に増加いたしました。

連結経常利益につきましては、太陽光発電所に係る割賦取引を含め、金融機関からの積極的な資金調達を行ったことによる支払利息が増加したものの、連結営業利益の増加に伴い、前年同四半期比で122.4%増（86百万円増益）と大幅に増加いたしました。

親会社に帰属する四半期純利益につきましては、連結経常利益の増加に加えて、税金費用が予定額を下回ったことに伴い、前年同四半期比では169.7%増（62百万円増益）と大幅に増加いたしました。

平成30年8月期第2四半期累計 当社（個別）P/Lサマリー



G Three Holdings

	平成30年8月期第2四半期累計実績			前四半期累計実績
	金額(百万円)	増減額(百万円)	増減率(%)	金額(百万円)
売上高	603	374	162.9	229
売上総利益	458	233	103.4	225
販管費	146	49	51.2	96
営業利益	312	183	142.7	128
経常利益	247	116	89.2	130
四半期純利益	196	88	81.5	108

当社の個別売上高につきましては、環境関連事業において、降雪等の影響から売電収入が見込みより減少したものの、太陽光発電所の売却収入による売上が増加したことから、前年同四半期比で162.9%増（374百万円増収）と大幅に増加いたしました。

営業利益につきましては、売上高の増加に伴い、前年同四半期比で142.7%増（183百万円増益）と大幅に増加いたしました。

経常利益につきましては、太陽光発電所に係る割賦取引を含め、金融機関からの積極的な資金調達を行ったことによる支払利息が増加したものの、営業利益の増加に伴い、前年同四半期比で89.2%増（116百万円増益）と大幅に増加いたしました。

四半期純利益につきましては、経常利益の増加に伴い、前年同四半期比で81.5%増（88百万円増益）と大幅に増加いたしました。

平成30年8月期第2四半期累計 セグメント別収支



G Three Holdings

当期(平成30年8月期第2四半期累計)実績

【百万円】

	SBY事業	環境関連事業
セグメント売上高	338	921
セグメント利益	△53	425

前期(平成29年8月期第2四半期累計)実績

【百万円】

	SBY事業	環境関連事業
セグメント売上高	456	570
セグメント利益	3	161

環境関連事業においては、降雪等の影響から売電収入が見込みより減少するも、太陽光発電所及び太陽光発電商材の売却収入が見込みより増加したことに伴い、セグメント売上高は921百万円と、前年同四半期比で61.6%増(351百万円増収)と大幅に増加し、セグメント利益は425百万円と、前年同四半期比で164.2%増(264百万円増益)と大幅に増加いたしました。

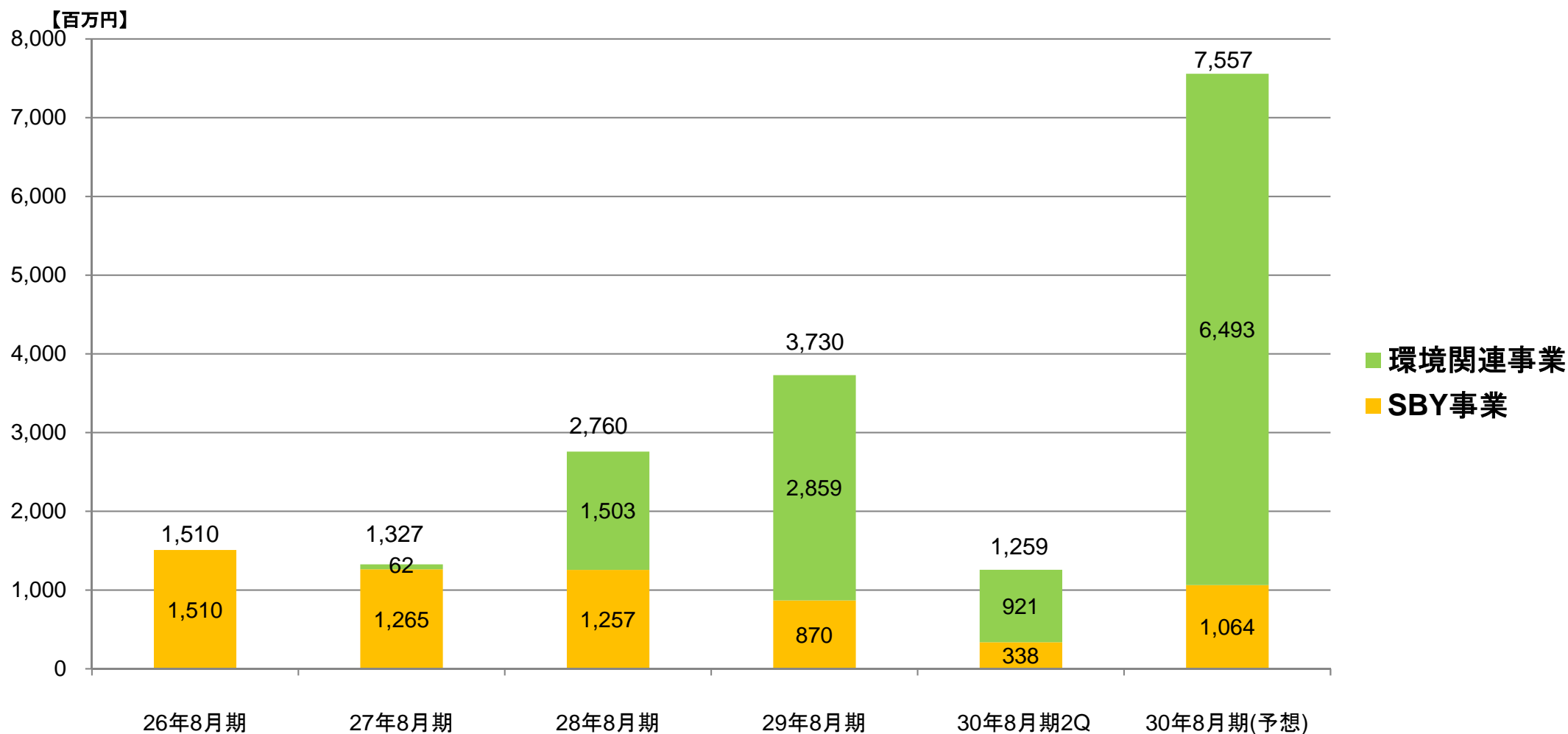
また、平成30年4月11日付「当社子会社による太陽光発電所用地の売却に関するお知らせ」にて公表のとおり、当第2四半期での収益計上を見込んでいた営業取引案件について、行政手続の関係から、第3四半期での収益計上(売上高160百万円)を行う予定としております。

SBY事業においては、コンセプトマーケティングショップ事業としての渋谷店の売上は堅調に推移するも、地方店の売上が見込みより減少するとともに、ビジネスアライアンス事業としてのロイヤリティから直接販売への切り替えによる収益計上時期は、第3四半期以降となること、及び滞留在庫20百万円相当の処分による原価の追加計上に伴い、セグメント売上高は338百万円と、前年同四半期比で25.9%減(118百万円減収)と減少し、セグメント利益は△53百万円と、前年同四半期比で56百万円減益と減少いたしました。

連結（セグメント別）売上高の推移



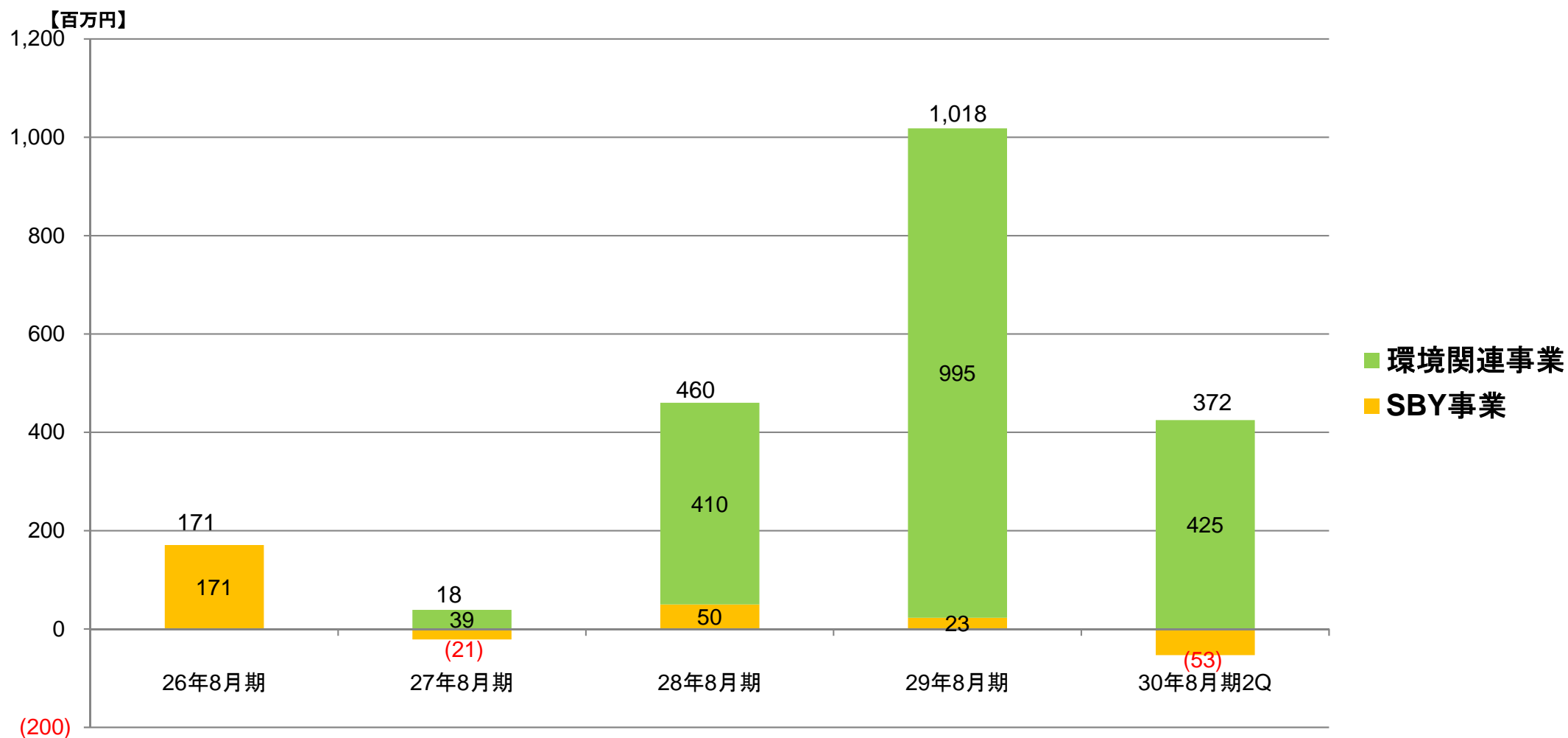
G Three Holdings



セグメント別利益の推移



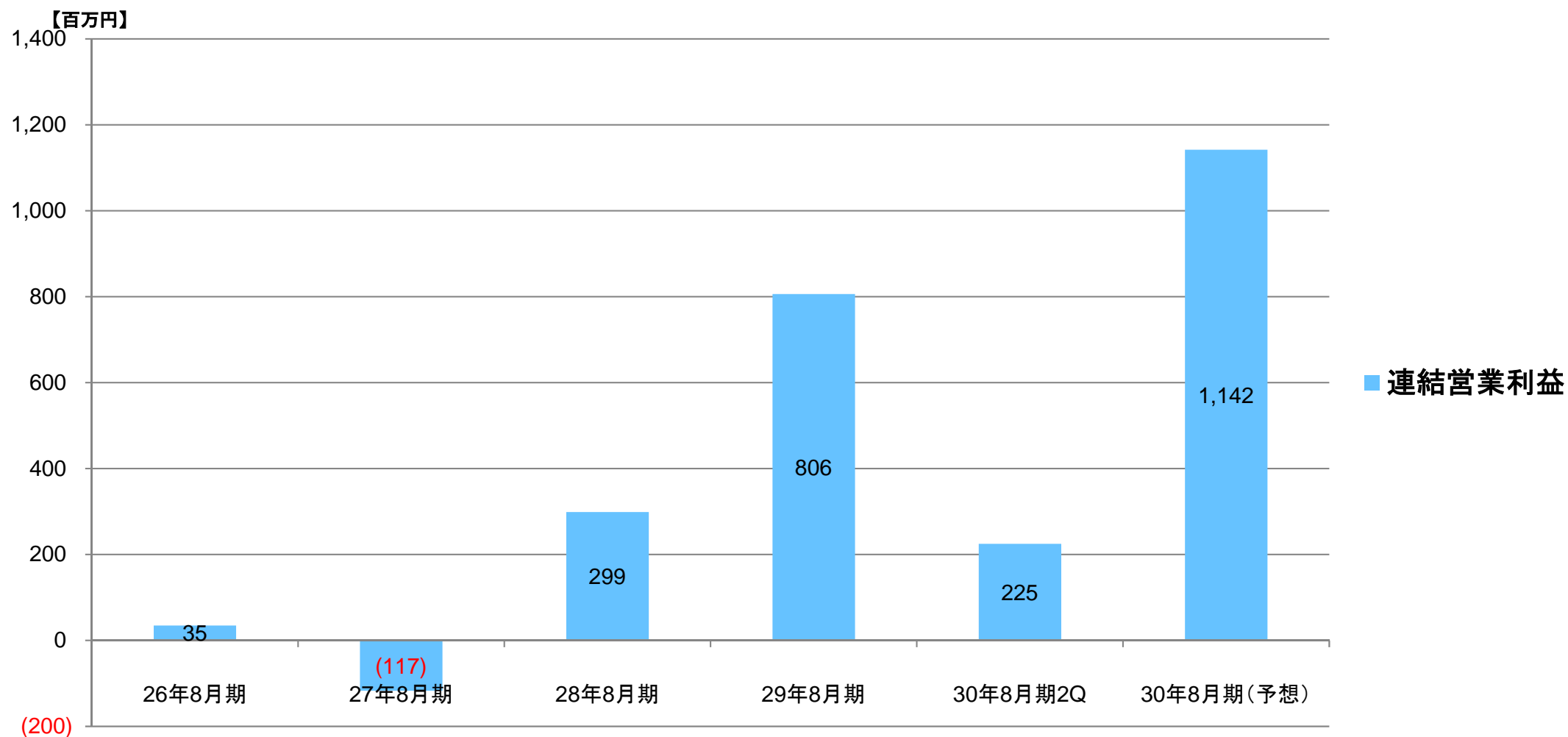
G Three Holdings



連結営業利益の推移



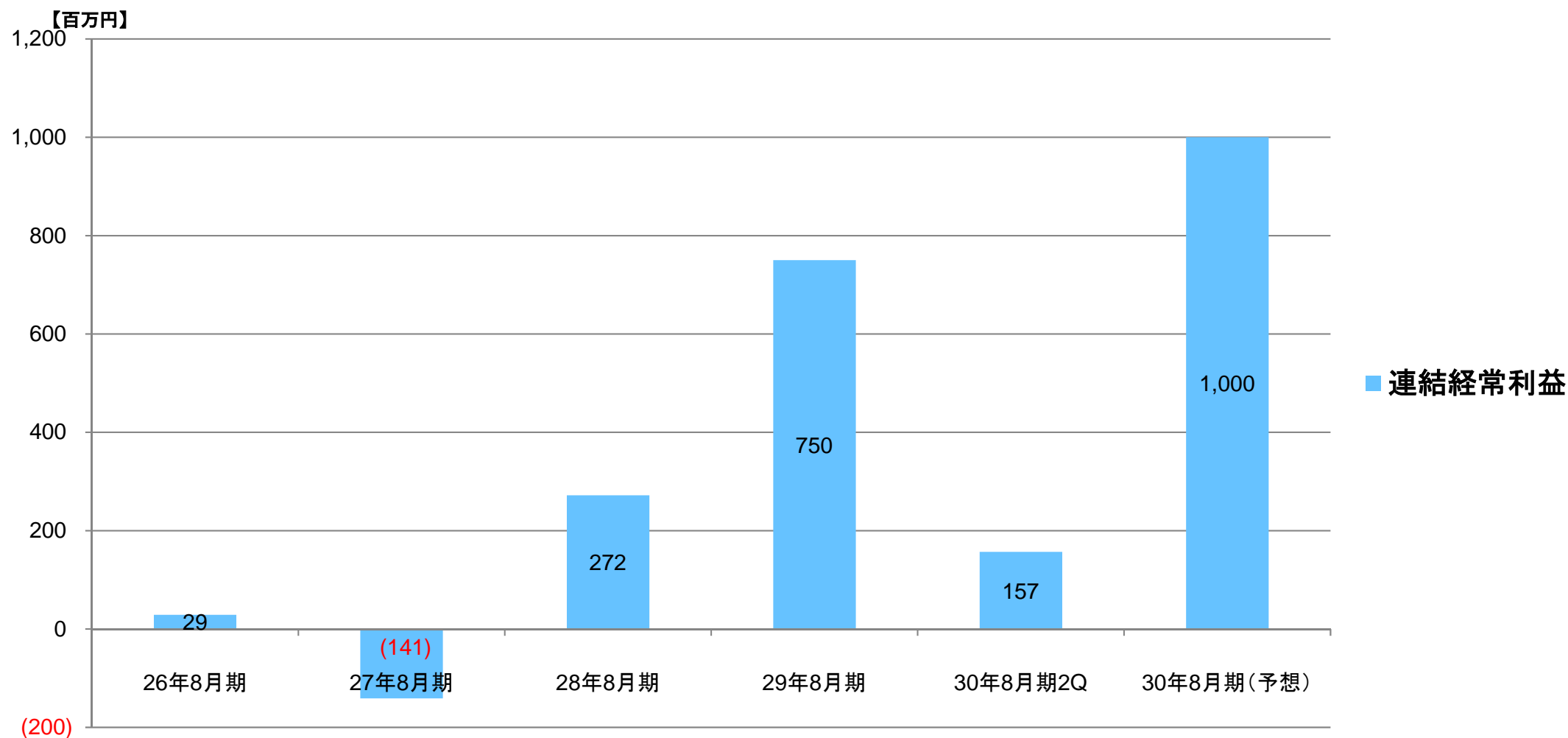
G Three Holdings



連結経常利益の推移



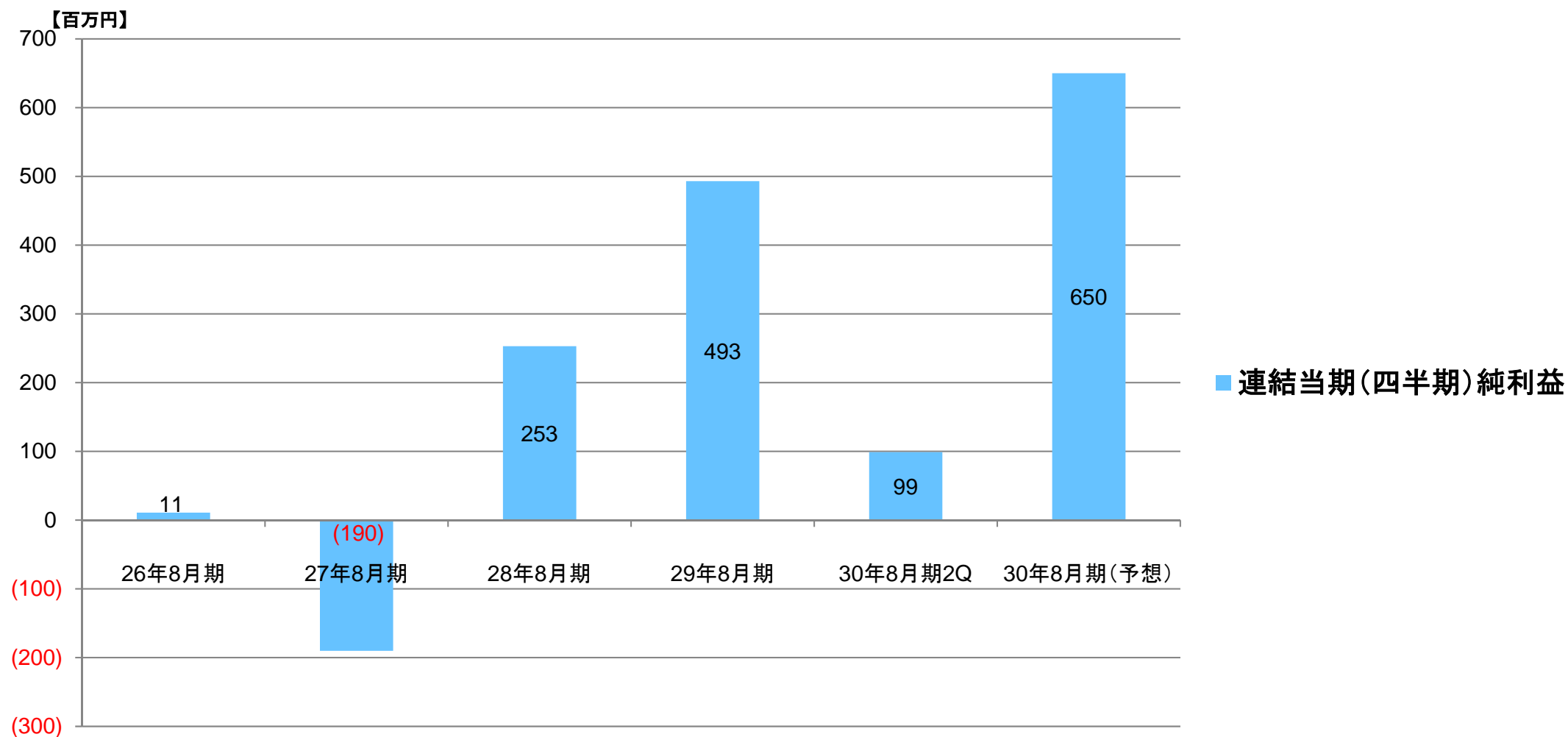
G Three Holdings



連結当期（四半期）純利益の推移



G Three Holdings



平成30年8月期第2四半期 連結B/Sサマリー



G Three Holdings

【百万円】

資産の部	29年8月末	30年2月末	増減	負債・純資産の部	29年8月末	30年2月末	増減
現金及び預金	571	449	-122	買掛金	95	159	64
売掛金	665	506	-159	短期借入金	568	201	-367
商品及び製品	86	69	-17	1年内返済予定長期借入金	34	56	22
仕掛販売用不動産	16	14	-2	未払金	37	41	4
原材料及び貯蔵品	0	0	0	前受金	877	746	-131
未収金	31	20	-11	未払法人税等	234	133	-101
前渡金	652	618	-34	設備関係未払金	229	233	4
営業投資有価証券	400	400	0	その他	22	87	65
繰延税金資産	17	23	6	流動負債合計	2,096	1,656	-440
その他	517	139	-378	長期借入金	34	59	25
貸倒引当金	-16	-10	6	長期未払金	49	66	17
流動資産合計	2,939	2,228	-711	資産除去債務	60	60	0
有形固定資産	4,286	4,234	-52	長期設備関係未払金	3,675	3,557	-118
機械装置及び運搬具	3,774	3,678	-96	その他	22	17	-5
その他	512	556	44	固定負債合計	3,840	3,759	-81
無形固定資産合計	15	15	0	負債合計	5,936	5,416	-520
敷金及び保証金	152	140	-12	資本金	810	876	66
長期未収金	27	26	-1	資本剰余金	432	497	65
出資金	0	308	308	利益剰余金	585	547	-38
その他	-1	39	40	自己株式	-347	-347	0
投資その他資産合計	178	513	335	株主資本合計	1,481	1,574	93
固定資産合計	4,479	4,762	283	純資産合計	1,482	1,574	92
資産合計	7,418	6,990	-428	負債純資産合計	7,418	6,990	-428

平成30年8月期第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末から428百万円減少し、6,990百万円となりました。これは未収消費税等が333百万円、受取手形及び売掛金が158百万円、現金及び預金が121百万円減少したことなどによるものです。負債は、前連結会計年度末から520百万円減少し、5,416百万円となりました。これは買掛金が64百万円増加する一方、短期借入金が366百万円、前受金が130百万円、未払法人税等が101百万円減少したことなどによるものです。純資産は、前連結会計年度末から92百万円増加し、1,574百万円となりました。これは資本金及び資本剰余金がそれぞれ65百万円増加し、第1四半期連結会計期間に配当を137百万円おこなったことにより、利益剰余金が38百万円減少したことなどによるものです。

平成30年8月期第2四半期連結キャッシュフロー



G Three Holdings

【千円】

	平成29年8月期2Q累計期間	平成30年8月期2Q累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	△252,325	623,058
投資活動によるキャッシュ・フロー	△401,780	△204,608
財務活動によるキャッシュ・フロー	581,000	△540,240
現金及び現金同等物の期末残高	494,843	389,389

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益148百万円、未収消費税等の減少額333百万円、売上債権の減少額162百万円の増加要因と、前受金の減少額130百万円、法人税等の支払額152百万円、利息の支払額63百万円の減少要因により、営業活動による資金の増加は623百万円となっております。

投資活動によるキャッシュ・フローは、貸付金の回収による収入158百万円の増加要因と、出資金の払込による支出312百万円、有形固定資産の取得による支出47百万円等の減少要因により、投資活動による資金の減少は204百万円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による収入70百万円、新株予約権の行使による株式の発行による収入34百万円の増加要因と、短期借入金の減少額366百万円、配当金の支払額135百万円等の減少要因により、財務活動による資金の減少は540百万円となっております。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度末から121百万円減少し、389百万円となりました。

平成30年8月期通期連結業績予想について



G Three Holdings

【百万円】

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益
前期（平成29年8月期） 第2四半期連結実績	1,026	67	70	36
当期（平成30年8月期） 第2四半期連結実績	1,259	225	157	99
前期（平成29年8月期） 連結実績	3,730	806	750	493
当期（平成30年8月期） 連結予想	7,557	1,142	1,000	650

当社グループは、引き続き、当社、エコ・ボnz及びエコ・テクノサービスが行う環境関連事業、並びにS B Yが行うビジネスアライアンス事業並びにコンセプトマーケティングショップ事業を両輪として収益力の大幅向上に取り組んでまいります。

さらに、平成30年2月9日付で設立いたしました株式会社Green Micro Factoryにおいて展開する飲食業（FATBURGER）を始め、既存事業とは別に、既存事業から派生する、またはシナジーのある事業を、黒字基盤を前提とした堅実な成長戦略が描ける投資を行うことで立ち上げ、新たな収益源を確保することが当社グループの継続的发展につながり、当社グループの成長と独自のポジショニングを維持していくことができるものと確信しております。

当期の連結業績の見通しにつきましては、平成29年10月13日の決算短信に公表いたしましたとおり、売上高7,557百万円、営業利益1,142百万円、経常利益1,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益650百万円を見込んでおります。

平成30年8月期の個別業績予想について



G Three Holdings

【百万円】

	売上高	経常利益	四半期（当期）純利益
前期（平成29年8月期） 第2四半期個別実績	229	130	108
当期（平成30年8月期） 第2四半期個別実績	603	247	196
前期（平成29年8月期） 個別実績	1,359	645	462
当期（平成30年8月期） 個別予想	2,490	598	389

当社は、事業持株会社として、当社自身による環境関連分野における事業推進を更に積極的に展開する方針です。
当期の当社個別業績の見通しにつきましては、平成29年10月13日の決算短信に公表いたしましたとおり、
売上高2,490百万円、経常利益598百万円、当期純利益389百万円を見込んでおります。

平成30年8月期の配当予想について



G Three Holdings

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
28年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
29年8月期	—	0.00	—	2.00	2.00	137	27.5	11.1
30年8月期（予想）	—	0.00	—	3.00	3.00		30.2	

当社は、株主への利益還元を常に重要課題として考えており、財政状態・業績・事業計画等を勘案し、株主への利益還元を実施していくことを配当の基本方針としております。

平成30年8月期においては、当社個別の業績において、当期純利益は389百万円（連結業績における親会社に帰属する当期純利益は650百万円）を見込むことから、1株あたり3.00円の期末配当（配当性向30.2%）を予定しております。



環境関連事業



G Three Holdings



G Three Holdings

株式会社ジー・スリーホールディングス事業概要

ジー・スリーホールディングスの事業概要



G Three Holdings

●未着工及び稼働済太陽光発電所の買取事業

当社あるいは当社が設立する合同会社が未着工及び稼働済太陽光発電所を買い取り、当社グループのノウハウをもとに事業計画を再構築し、エコ・ボNZ及びパネルメーカ並びに建設会社等外部の協力を得て、開発あるいは再開発を進めることで太陽光発電所を国内全地域に建設し、当社グループの収益を見込むものです。

●太陽光発電所の運営【10,000kW (10MW)】→15,000kW (15MW)

当社は、売電事業を開始し、合計10,000W(10MW)規模の太陽光発電所の運営を行うことを目標とする旨を公表しております。

また、今期中に5,000W(5MW)分を追加で自社保有する予定です。

【2018年4月現在：計9,500kW (9.5MW)】

●ソーラーフロンティア株式会社との太陽光発電事業の推進に向けた基本合意

当社は、ソーラーフロンティア株式会社（代表取締役社長：平野敦彦 以下、「ソーラーフロンティア」という。）と、日本国内における太陽光発電事業の推進に向けた協業の方向性についての基本合意書を締結しております。

基本合意書において、当社及びエコ・ボNZは、主に太陽光発電所の開発を行い、ソーラーフロンティアは、主に太陽光発電事業の資金調達、CIS 薄膜太陽電池の供給、周辺機器及び部材等の調達を行うことで、共同で合計約300,000kW(300MW)の太陽光発電所を建設することを計画する旨を合意しております。



未着工太陽光発電所の買取事業 14,000kW

当該太陽光発電所につきましては、当社は、設備認定及び接続権利を太陽光発電所の運用会社（以下、「運用会社」という。）に継承しました。エコ・ボnzは、開発権利を運用会社に継承、土地を運用会社に賃貸（20年間）する運びとなりました。また、エコ・ボnzでは、太陽光電池モジュール及び周辺機器等太陽光発電商材の供給を行うことを予定しております。当社子会社である株式会社エコ・テクノサービスは、運用会社に対してO & Mサービスを提供することを予定しております。

未着工太陽光発電所及び取得する固定資産の概要

- ① 設備名称 三重県志摩市太陽光発電所
- ② 取得する固定資産 三重県志摩市太陽光発電所用地
- ③ 設置場所 三重県志摩市
- ④ 売電価格 32 円/kWh
- ⑤ 設置面積 194,724.80 m²
- ⑥ 設備出力 14,000kW (14MW)
- ⑦ 年間発電量 17,758MWh/年



未着工太陽光発電所の買取事業 39,000kW

当該太陽光発電所につきましては、仙台太陽光センター合同会社の出資持分の全額を太陽光発電所の運用会社（以下、「運用会社」という。）に継承するとともに、当社子会社である株式会社エコ・ボnzは、運用会社に対して太陽光電池モジュール及び周辺機器等太陽光発電商材の供給を行うことを予定しております。また当社子会社である株式会社エコ・テクノサービスは、運用会社に対してO & Mサービスを提供することを予定しております。

また、売却先との間で条件面の協議が整ったことから、平成29年8月期に当社が保有する仙台太陽光センター合同会社の出資持分50%のうち16.7%（当社出資持分の 1/3）を売却する旨の売買契約を締結致しました。

未着工太陽光発電所及び取得する固定資産の概要

- ① 設備名称 仙台愛子太陽光発電所
- ② 設置場所 宮城県仙台市
- ③ 売電価格 36 円/kWh
- ④ 設置面積 1,087,312.83 m²
- ⑤ 設備出力 50,000kW (50MW) 【当社持分規模25,000kW (25.5MW)】
- ⑥ 年間発電量 47,000MWh/年



未着工太陽光発電所の買取事業 49,000kW

当社子会社であるジー・スリーエコエナジー合同会社（代表社員 株式会社ジー・スリーホールディングス 職務執行者 奥田泰司 以下、「ジー・スリーエコエナジー」という。）において、以下のとおり、未着工太陽光発電所の買取を行うことを決定いたしました。

※当該太陽光発電所は、2018年2月に売却済みです。

当該太陽光発電所につきましては、当社子会社である株式会社エコ・ボンズは、太陽光電池モジュール及び周辺機器等太陽光発電商材の供給を行い、当社子会社である株式会社エコ・テクノサービスは、運用会社に対してO & Mサービス及び設計業務を提供することを予定しております。

未着工太陽光発電所の概要

- ① 設備名称 出水大久保メガソーラー発電所
- ② 設置場所 鹿児島県出水市
- ③ 売電価格 36 円/kWh
- ④ 認定容量 10,000kW (10MW)
- ⑤ 設備出力 11,880kW (11.88MW)

未着工太陽光発電所の買取事業 51,000kW

当該太陽光発電所につきましては、当社において、エネルギー関連分野における投資効率を踏まえた資産運用の観点から、自社保有物件として運用し、電力会社に対する売電を行うことで当社の長期的な安定収益を見込むものであります。また、当該太陽光発電所のO & M（発電所の保守・運営・管理）は、当社子会社である株式会社エコ・テクノサービス（代表取締役 香藤紘一）が行います。

未着工太陽光発電所及び取得する固定資産の概要

- ①設備名称 G3HD第2長泉町太陽光発電所
- ②設置場所 静岡県駿東郡長泉町
- ③売電価格 36 円/kWh
- ④認定容量 1,700kW (1.7MW)
- ⑤設備出力 約 2,200kW (2.2MW)
- ⑥売電開始日 平成 29 年 3月 15 日
- ⑦売電収入 約 9,500 万円/年（期間 20 年間）





未着工太陽光発電所の買取事業 75,000kW

当該太陽光発電所につきましては、仙台上愛子第二合同会社の出資持分の全額を太陽光発電所の運用会社（以下、「運用会社」という。）に継承するとともに、当社子会社である株式会社エコ・ボnzは、運用会社に対して太陽光電池モジュール及び周辺機器等太陽光発電商材の供給を行うことを予定しております。また当社子会社である株式会社エコ・テクノサービスは、運用会社に対してO & Mサービスを提供することを予定しております。

また、売却先との間で条件面の協議が整ったことから、平成29年8月期に当社が保有する仙台上愛子第二合同会社の出資持分50%のうち16.7%（当社出資持分の 1/3）を売却する旨の売買契約を締結致しました。

未着工太陽光発電所及び取得する固定資産の概要

- ① 設備名称 第二仙台愛子太陽光発電所
- ② 設置場所 宮城県仙台市
- ③ 売電価格 32 円/kWh
- ④ 設置面積 4,680,592.90 m²
- ⑤ 設備出力 48,000 kW (48MW) 【当社持分規模 24,000 kW (24MW)】
- ⑥ 年間発電量 45,000MWh/年

その他、未公表分の未着工及び稼働済太陽光発電所の買取りを行っております。

太陽光発電所の運営事業

当社は、平成 28 年4月 27 日付「新たな事業（太陽光発電所の運営による売電事業）の開始に関するお知らせ」において、売電事業を開始し、合計10,000kW(10MW)規模の太陽光発電所の運営を行うことを目標とする旨を公表しております。
また、今期中に5,000kW(5MW)分を更に追加して自社保有をする予定です。

太陽光発電所の運営事業 2,500kW / 10,000kW ※成沢(300kW)含

当該太陽光発電所につきましては、当社において、エネルギー関連分野における投資効率を踏まえた資産運用の観点から、自社保有物件として運用し、電力会社に対する売電を行うことで当社の長期的な安定収益を見込むものであります。また、当該太陽光発電所のO & M（発電所の保守・運営・管理）は、当社子会社である株式会社エコ・テクノサービス（代表取締役 香藤紘一）が行います。

太陽光発電所運営事業の概要

- ①設備名称 G3HD第2長泉町太陽光発電所
- ②設置場所 静岡県駿東郡長泉町
- ③売電価格 36 円/kWh
- ④認定容量 1,7000kW (1.7MW)
- ⑤設備出力 約 2,200kW (2.2MW)
- ⑥売電開始日 平成 29 年 3月 15日
- ⑦売電収入 約 9,500 万円/年（期間 20 年間）
- ⑧取得価額 買取先との守秘義務契約により公表を控えさせていただきますが、直前連結会計年度の末日における連結純資産（953 百万円）の 30%に相当する額以上となっております。





G Three Holdings

太陽光発電所の運営事業 9,400kW / 10,000kW

※成沢(300kW)含

当該太陽光発電所につきましては、当社において、エネルギー関連分野における投資効率を踏まえた資産運用の観点から、自社保有物件として運用し、電力会社に対する売電を行うことで当社の長期的な安定収益を見込むものであります。また、当該太陽光発電所のO & M（発電所の保守・運営・管理）は、当社子会社である株式会社エコ・テクノサービス（代表取締役 香藤紘一）が行います。

太陽光発電所運営事業の概要（田川発電所）

- ①設備名称 G3HD田川第1太陽光発電所
- ②設置場所 福岡県田川郡
- ③売電価格 40 円/kWh
- ④認定容量 1,990kW (1.99MW)
- ⑤設備出力 約1,999kW (1.999MW)
- ⑥売電開始日 平成 29 年 4 月～（平成 26 年 11 月から売電中）
- ⑦売電収入（見込）約 94 百万円/年
（期間約 17 年間での合計額 1,433 百万円）

- ①設備名称 G3HD田川第2太陽光発電所
- ②設置場所 福岡県田川市- 2 -
- ③売電価格 40 円/kWh
- ④認定容量 1,990kW (1.99MW)
- ⑤設備出力 約 1,999kW (1.999MW)
- ⑥売電開始日 平成 29 年 4 月～（平成 26 年 11 月から売電中）
- ⑦売電収入（見込）約 95 百万円/年
（期間約 17 年間での合計額 1,437 百万円）



太陽光発電所の運営事業 9,500kW / 10,000kW

※成沢(300kW)含

太陽光発電所運営事業の概要（岩崎発電所）

- ①設備名称 G3HD岩崎第1太陽光発電所
- ②設置場所 福岡県嘉麻市
- ③売電価格 40 円/kWh
- ④認定容量 994kW (0.994MW)
- ⑤設備出力 約 994kW (0.994MW)
- ⑥売電開始日 平成 29 年 4 月～（平成 26 年 11 月から売電中）
- ⑦売電収入（見込）約 48 百万円/年
（期間約 17 年間での合計額 715 百万円）

- ①設備名称 G3HD岩崎第2太陽光発電所
- ②設置場所 福岡県嘉麻市
- ③売電価格 40 円/kWh
- ④認定容量 1,988kW (1.988MW)
- ⑤設備出力 約 1,994kW (1.994MW)
- ⑥売電開始日 平成 29 年 4 月～（平成 26 年 11 月から売電中）
- ⑦売電収入（見込）約 94 百万円/年
（期間約 17 年間での合計額 1,430 百万円）



また、2018年中に売電開始予定の約150kW（売電価格32円/kWh）を取得しました。

合計：約9,500kW / 10,000kW

再生可能エネルギー事業への出資

現代社会の生活に生きる私たちには安定した電気が必要不可欠です。
2011年に起きた福島第一原子力発電所事故により原発を停止した結果、
エネルギー自給率が低下するとともに、火力発電所への依存度が増大し、
発電に伴う二酸化炭素の排出量は増加しております。

安心・安全、そして地球環境に優しいクリーンエネルギーを供給したいという思いから、
当社は太陽光発電以外にも洋上風力・地熱発電・バイオマス発電など
再生可能エネルギーを活用した発電事業に参入いたします。

また、日常的に使用する電気機器等を最低限のエネルギーによって
使用することができるように開発を進め、
恒常的に環境への負荷を軽減することが出来るよう努めて参ります。

再生エネルギー関連事業の今後の展開（国内外）

洋上風力発電

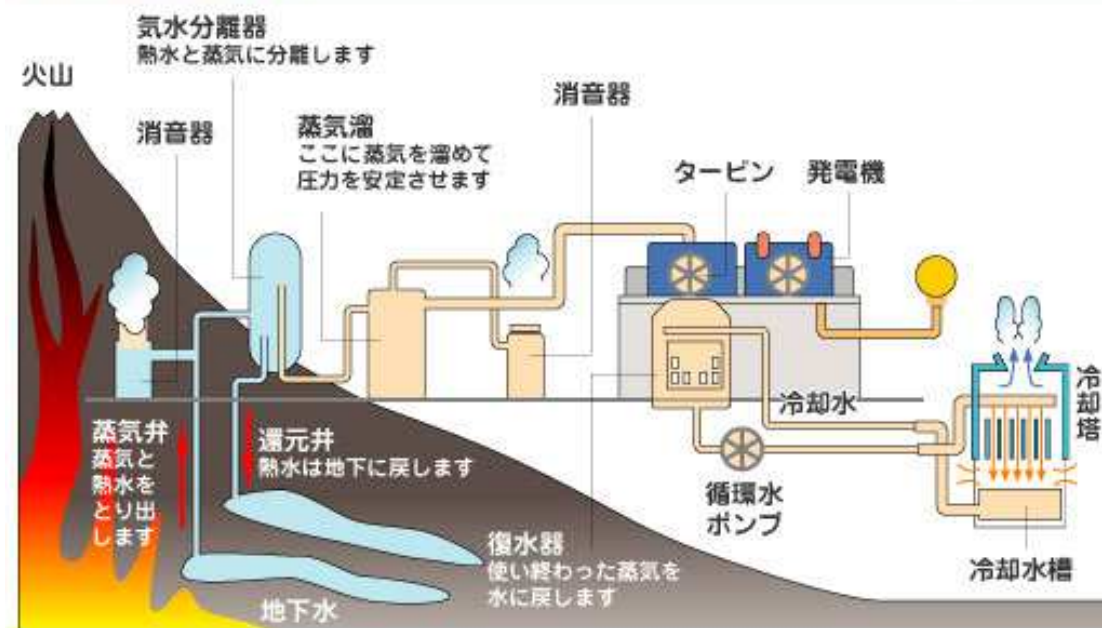


バイオマス発電



地熱発電

地熱発電のしくみ

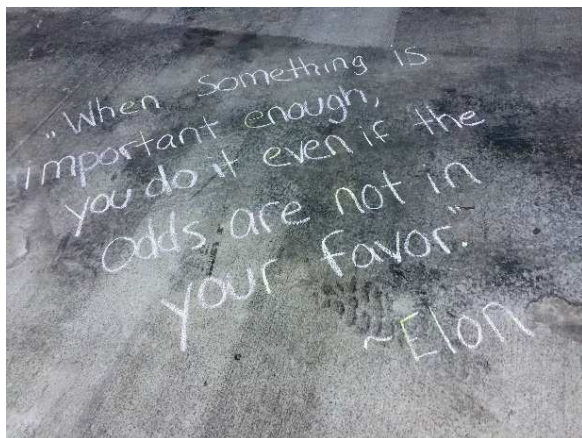


ハイパーループ(Hyperloop)



G Three Holdings

当社は引き続き、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科との共同研究契約を推進し、ハイパーループの社会実装化構想のために、研究資金の調達支援や、民間企業からの技術提供の取り纏め等、総合的なマネジメントを行なうとともに、国内外の官公庁及び民間企業に向けて、新たな 運輸交通手段としての次世代交通システム構想を提案してまいります。

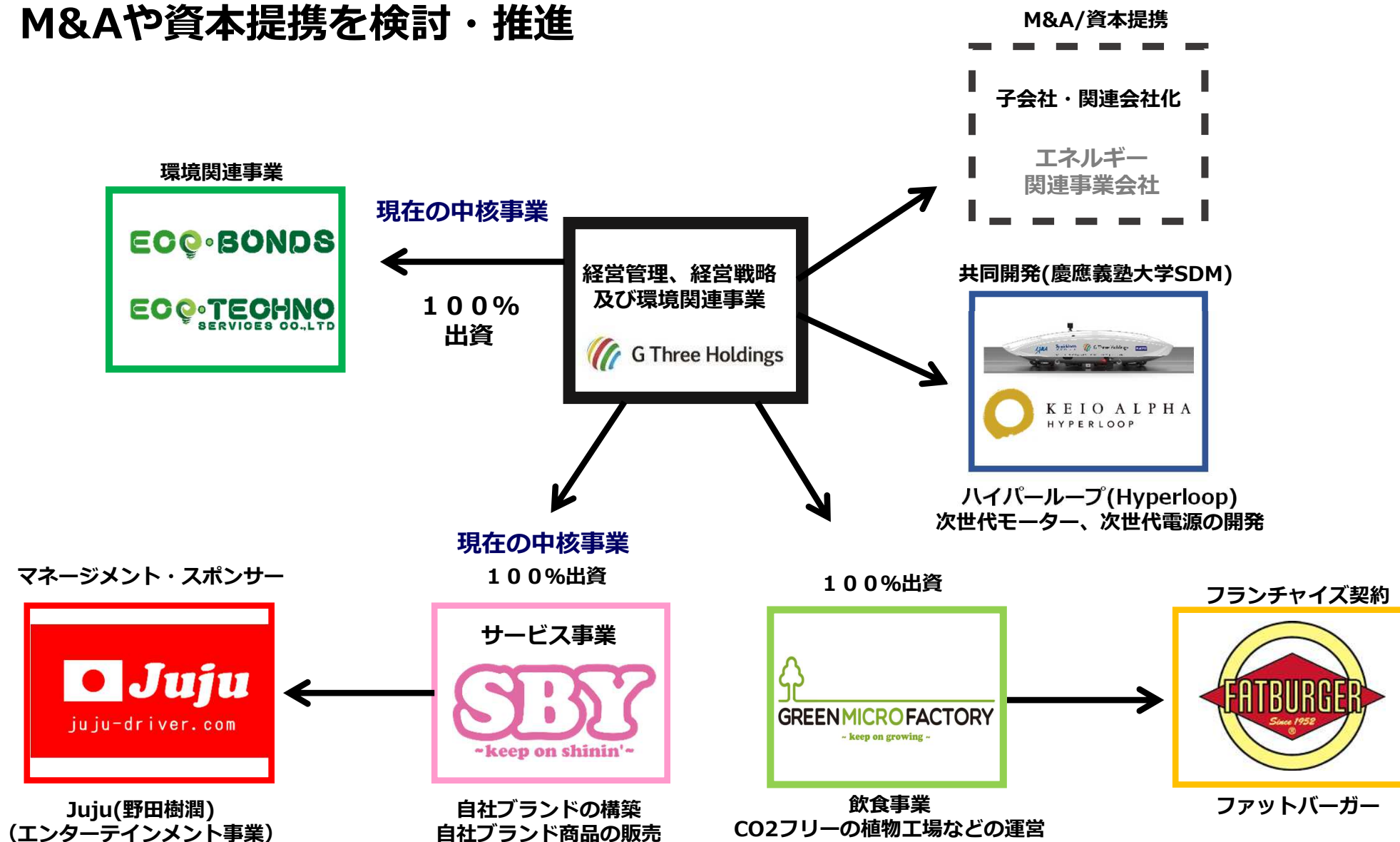


戦略的提携の実施



G Three Holdings

他業種の企業含め、当社事業とシナジーが期待出来る企業に対して、
M&Aや資本提携を検討・推進





株式会社エコ・ボンドズの事業概要

更なる業容を拡大させるため、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギー関連事業を展開中。

商 号 株式会社エコ・ボンス

所在地 東京都品川区東品川2-3-14東京フロントテラス20F

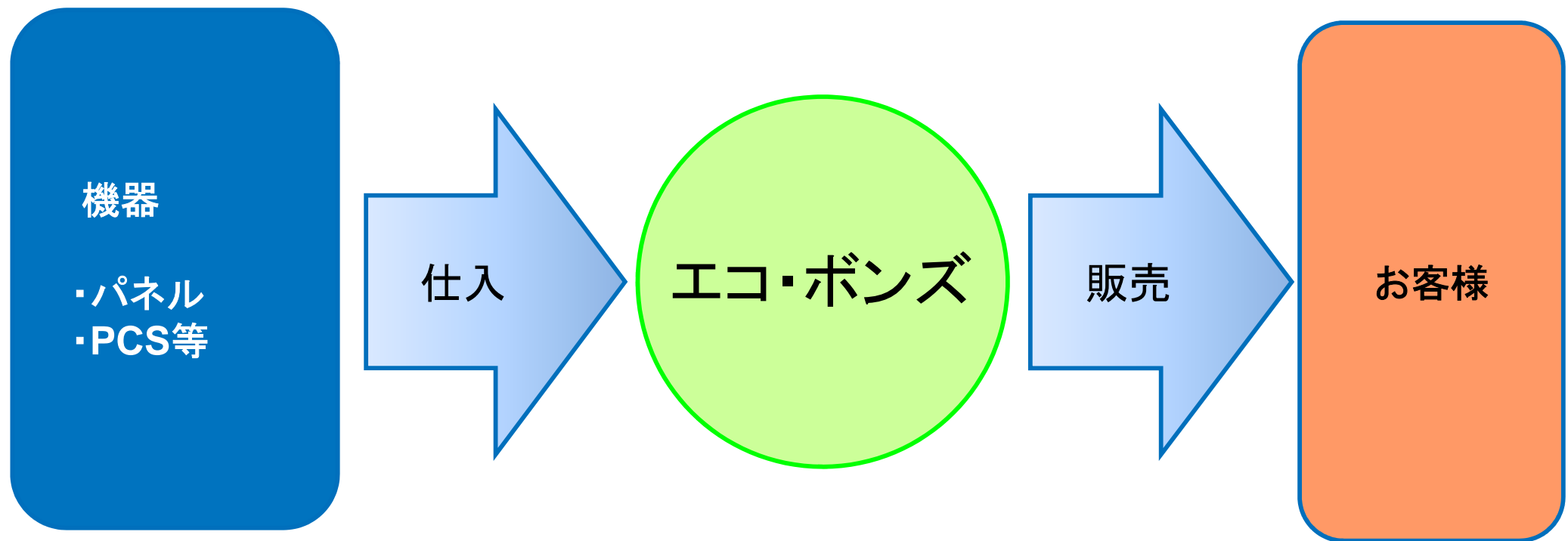
代表者 代表取締役 香藤 紘一

設 立 平成 26 年 11 月 4 日

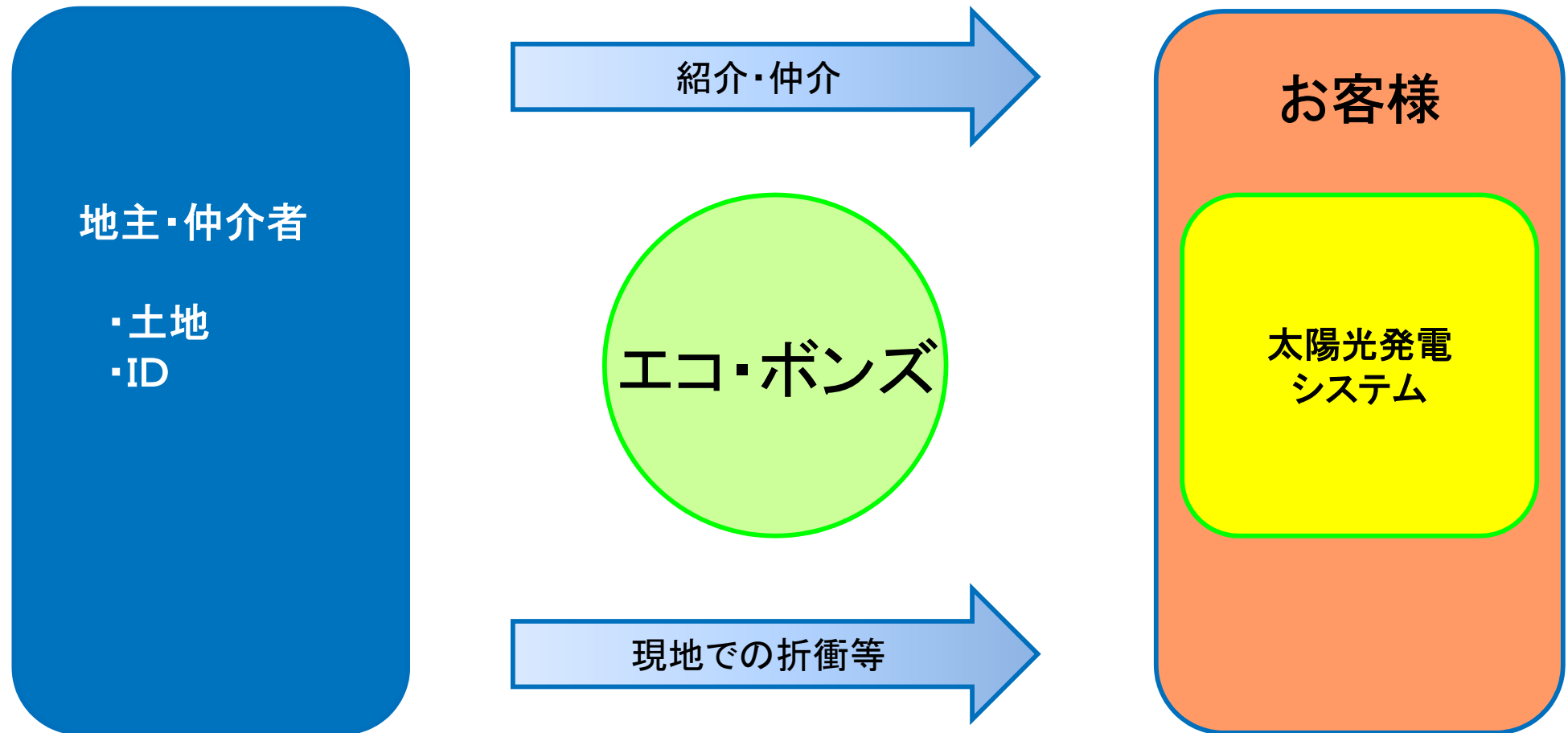
事業内容

- ① 太陽光パネル（モジュール）等、太陽光発電システムの施工販売
- ② 太陽光発電システム導入のためのコンサルタント業務
- ③ 太陽光発電事業用地の仕入/販売/賃貸
- ④ 経済産業省の設備認定の仕入/申請/販売（I D）
- ⑤ 電力会社への仕入/申請

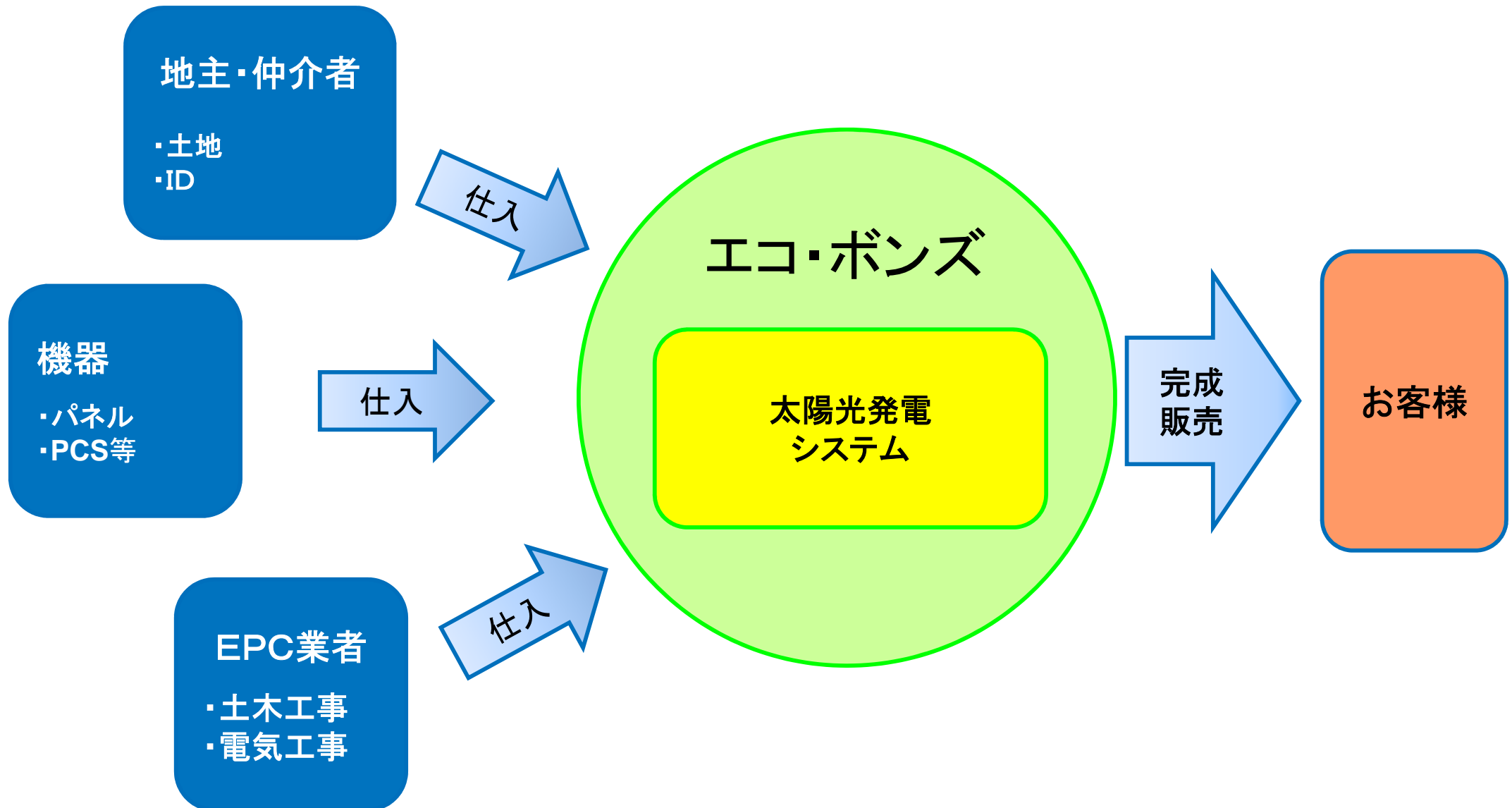
① 機器の仕入/販売



② 太陽光発電システム導入のためのコンサルタント業務



③ 太陽光パネル（モジュール）等、太陽光発電システムの施工販売（完成販売）



④ セカンダリ案件の提供

稼働済
太陽光発電所

仕入れ

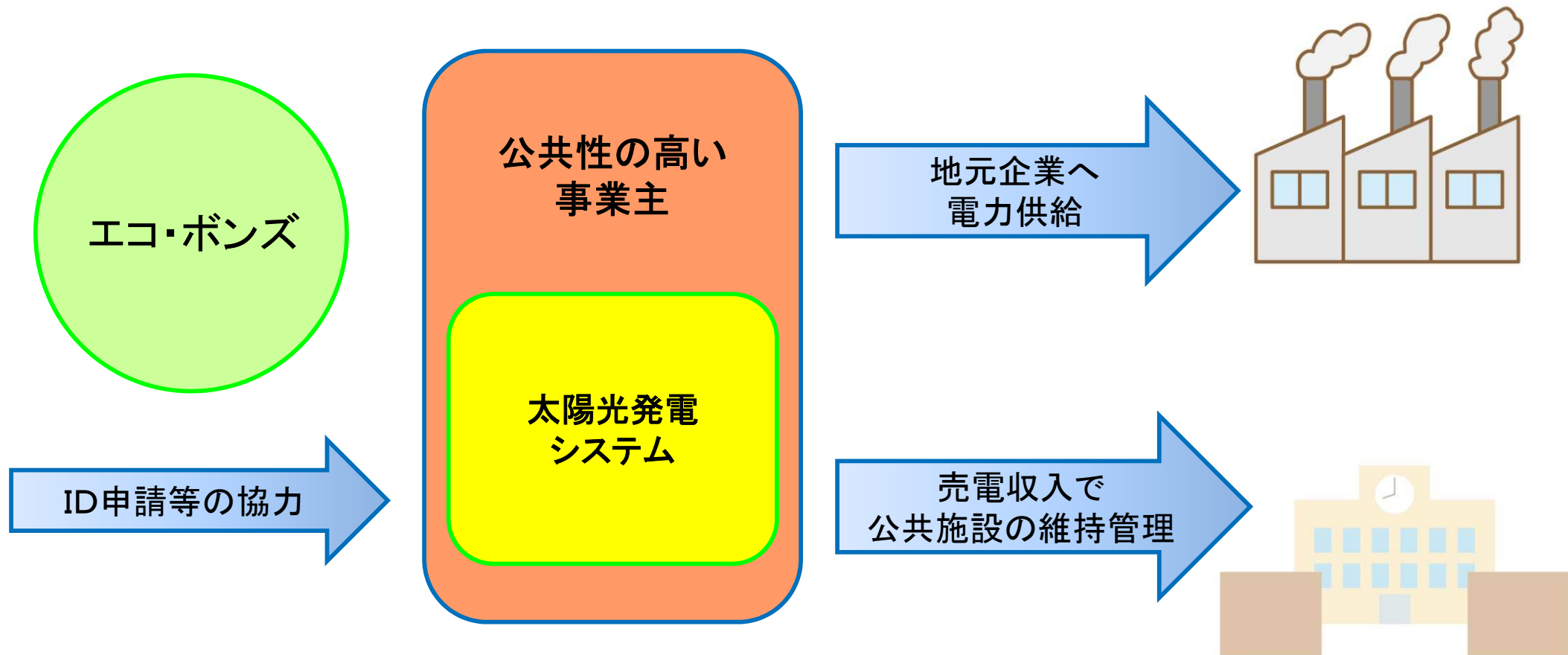
エコ・ボンド

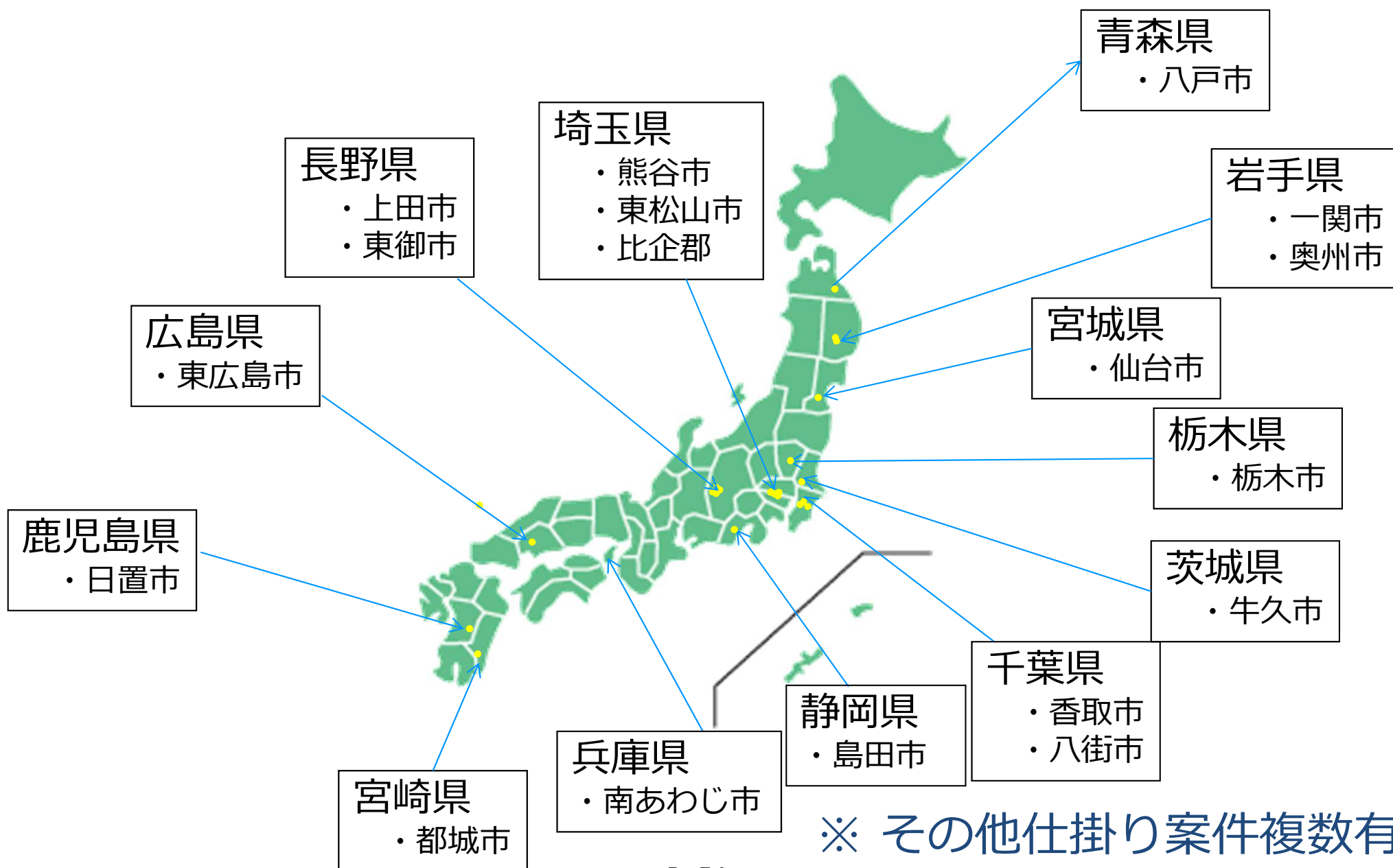
販売

地方有力企業
大手有力企業
ファンド

点検・補修

⑤ 地元地域への貢献





※ その他仕掛け案件複数有り



株式会社エコ・テクノサービスの事業概要

更なる業容を拡大させるため、当社グループにおける新たな事業領域として、太陽光発電保守・メンテナンスを中心とした再生可能エネルギーアフターメンテナンス事業を展開。

商 号 株式会社エコ・テクノサービス

所在地 東京都品川区東品川2-3-14東京フロントテラス20F

代表者 代表取締役 香藤 紘一

設 立 2016年11月4日

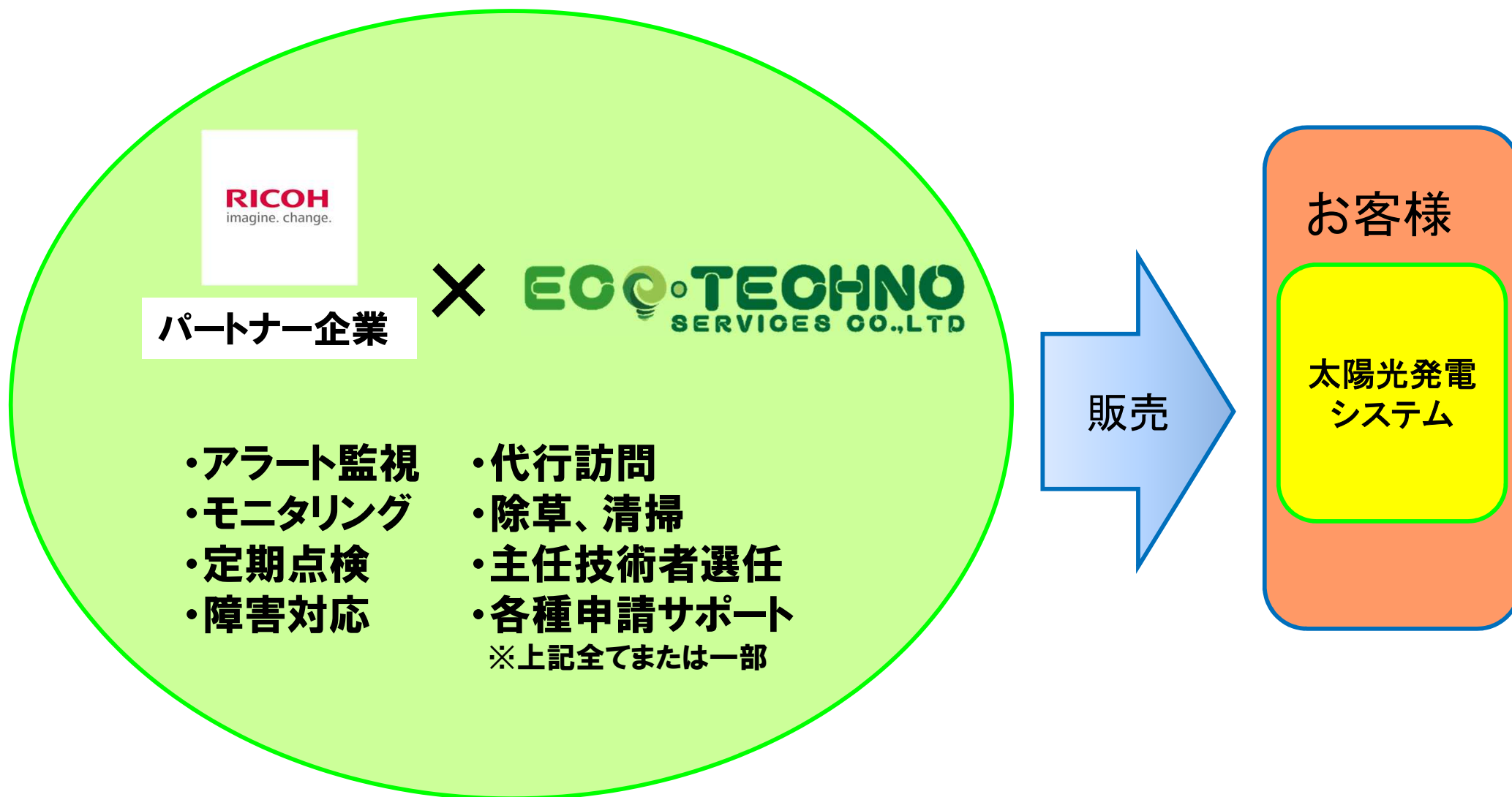
事業内容

- ① 再生エネルギー関連電気工事
- ② 再生エネルギー関連アフターメンテナンス
- ③ 再生エネルギー関連土木工事
- ④ 調査、測量、試験及び検査
- ⑤ コンピュータ・ソフトウェア及びハードウェアの開発、設計、製作、販売、レンタル、リース及び管理



2018年8月期より業績への寄与

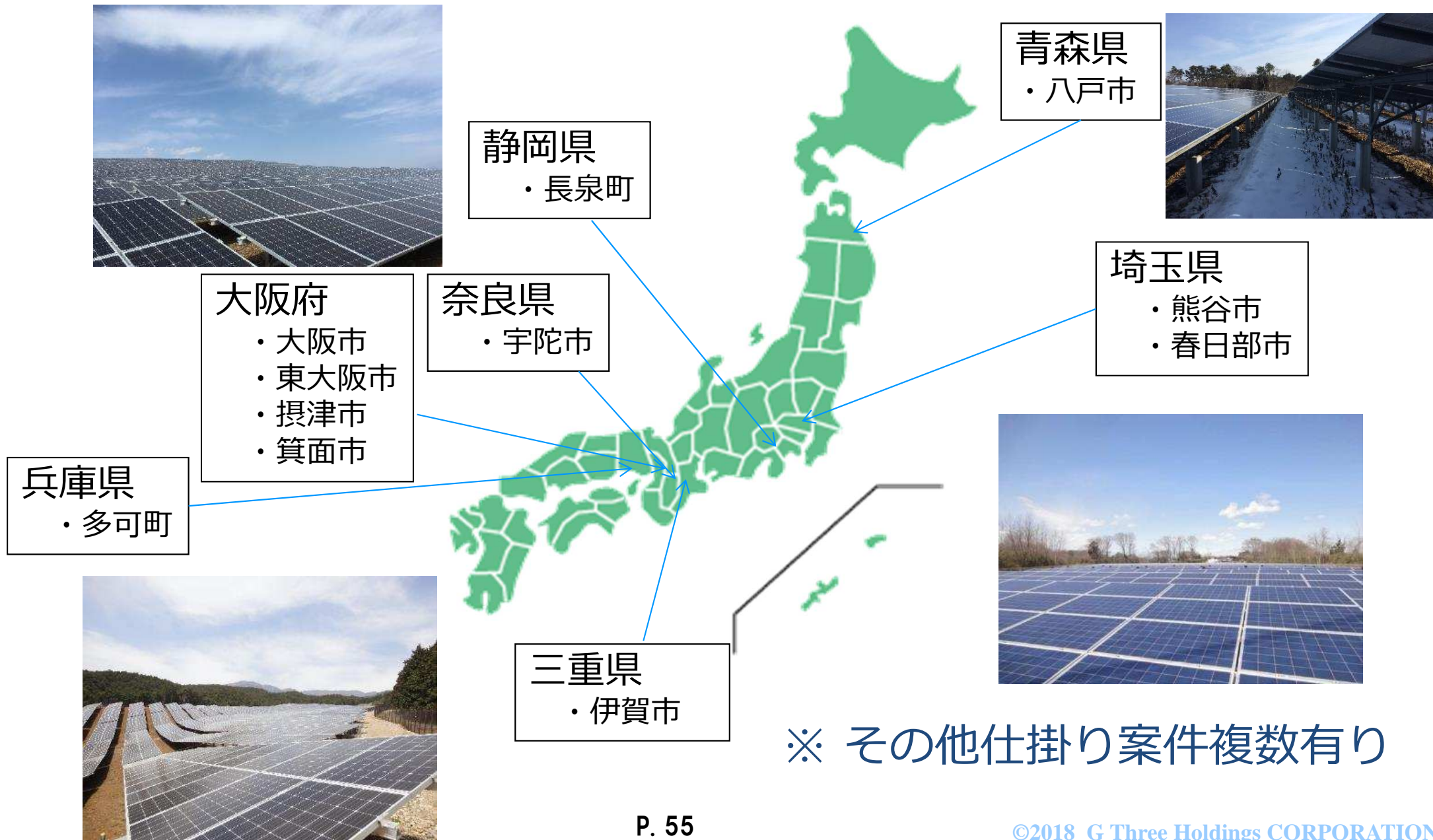
① 保守管理（O&M）サービスの普及



事業実績例①



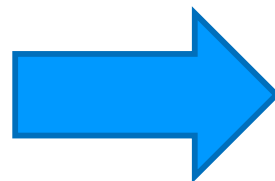
G Three Holdings



除草・草刈り作業の一例

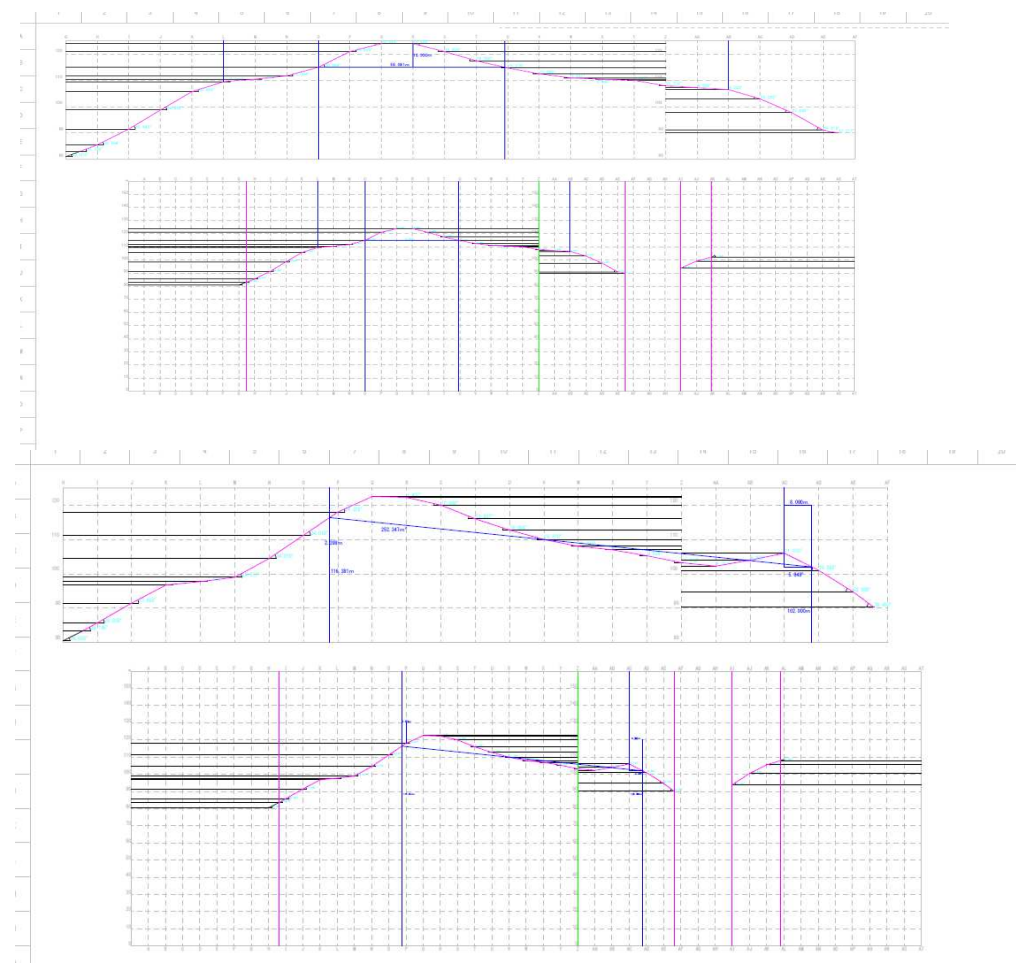
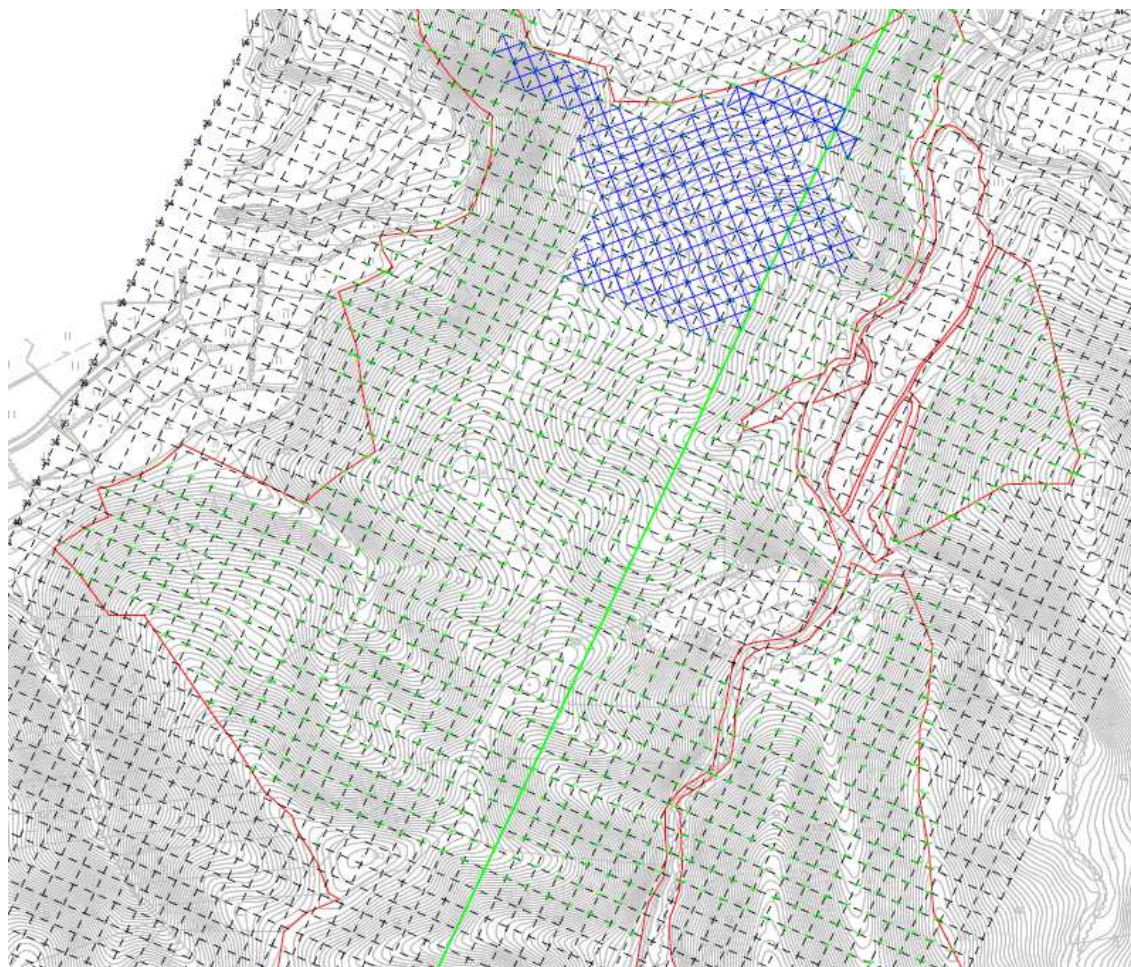
太陽光発電所の概要

- ①設置場所 埼玉県比企郡吉見町
 - ②設置面積 14,370 m²
 - ③認定容量 1000.0kW
 - ④設備出力 1015.5kW
- 平成28年3月 売電開始



③ 設計業務

土木造成・電気工事・開発許認可を見据え総合的に設計





SBY事業



SBY Co.,Ltd.

株式会社 S B Y の事業概要

2020年オリンピックへ向け、SHIBUYAを世界ブランドへ!



SBYはDiamondのように常に輝き続ける（keep On Shining）を創造する会社！

SBYは店舗運営としては、SHIBUYA109店を2007年12月にスタートして以来、当社は日本国内への情報発信や文化を創造してきました。

これからのSBYは、2020年に向け世界の様々な商品・文化を取り入れながらSHIBUYAを日本が誇れる情報発信基地として、お客様も会社もスタッフもすべての人々に（Keep On Shining）を提供する総合エンタテインメント会社です。

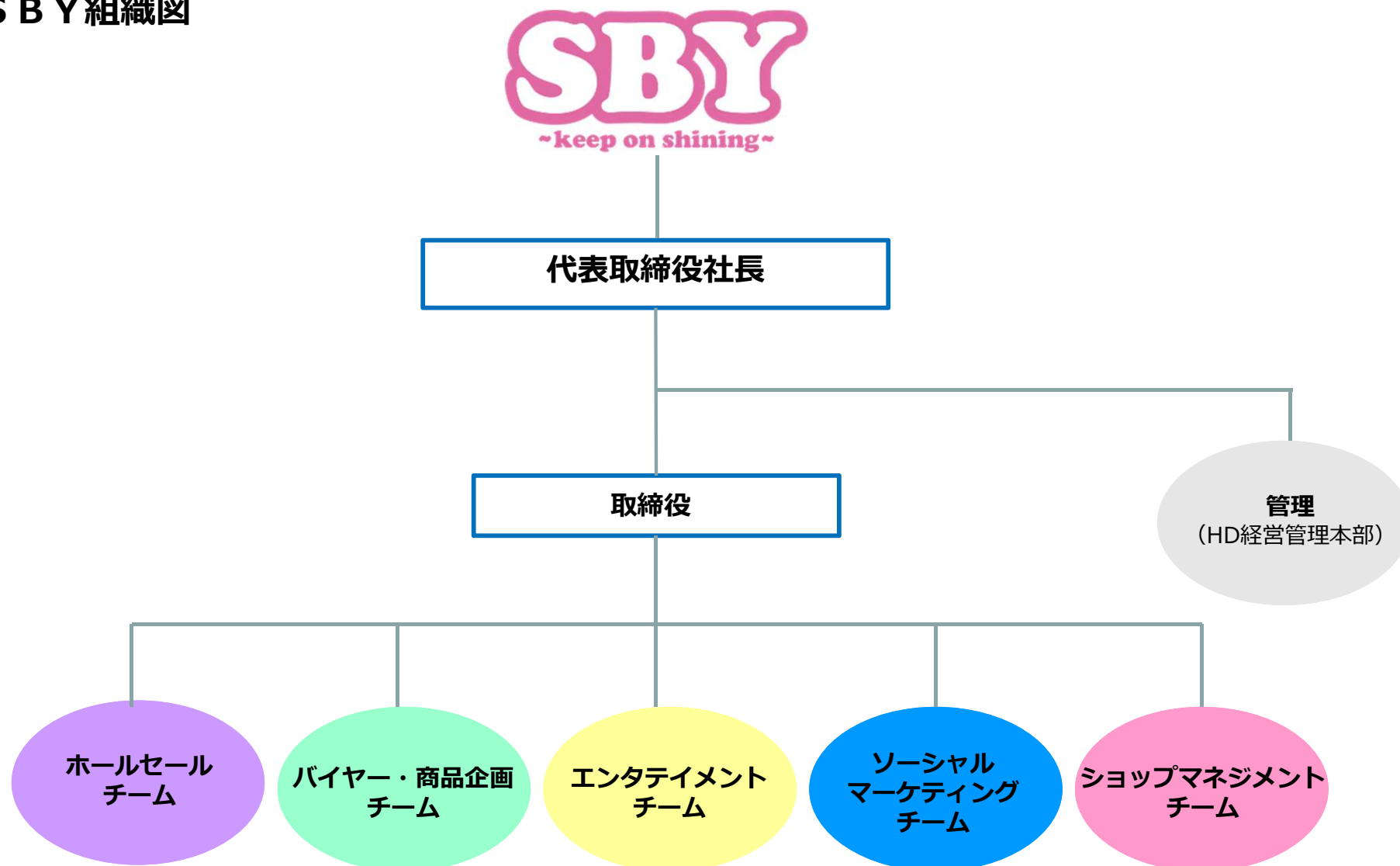
- 2007年12月 : 渋谷店 SHIBUYA109内に1号店をOPEN
- 2011年 4月 : 阿倍野店 大阪のあべのキューズモール内に2号店をOPEN
- 2012年 3月 : 町田店 町田の109MACHIDA内に3号店をOPEN
- 2013年 4月 : 梅田店 梅田OPA内に4号店 (WoMAMiA)をOPEN
- 2014年 9月 : 鹿児島店 アミュプラザ鹿児島内に5号店をOPEN
- 2016年10月 : 福岡店 キャナルシティ博多内に6号店をOPEN
- 2016年12月 : Diamond Lashのコスメコンタクト®レンズ発売
- 2017年2月 : 町田店を閉鎖 — 現在5店舗を運営
- 2017年8月 : JUJU/野田樹潤 マネジメント業務提携契約締結
- 2018年3月 : Diamond Lashのつけまつ毛新商品 PINKシリーズ発売
- 2018年5月 : Diamond Lashのつけまつ毛新商品 GRN・YEL・BLUシリーズ発売

S B Y 組織の説明



G Three Holdings

S B Y 組織図



事業紹介

－ホールセールチーム

化粧品・雑貨などをお取り扱いの企業様に対して、自社アイテムだけでなく国内メーカー様、海外輸入品まで、お客様に合わせたアイテムの卸しサービス、またお客様に合わせた商品ご提案などのトータルサービスを行うチーム

－バイヤー商品企画チーム

直営店舗で販売する商品や卸し商品を、メーカーや国内外のブランドから買い付ける。トレンドや、ブランド・店舗のコンセプトに基づいて、店頭に並ぶ半年以上前から商品の仕入れ計画を考え、展示会やメーカーの持ち込みから商品をセレクトし、価格交渉を行う。確実に売れる商品を仕入れ、タイミング良く店頭に並べることでヒット商品を誕生させる事を目的とするチーム

－エンタテインメントチーム

店舗型情報発信スペースを提供し若い女子の心をつかむエンタテインメントを発信するサービス・自社企画・他社企画提案含め立案し情報を配信して行くサービスを行う。またインフルエンサーの育成・マネジメントを行いエンタテインメント性の高い情報を発信を目的とするチーム

－ソーシャルマーケティングチーム

自社商品（Diamond Lash）全体の製造管理・新商品企画の立案・自社新商品デザインの進行、ブランド戦略・プレス・イベントの企画・新商品企画の立案を行う。

またブランドホルダーとしてのライセンス管理・ライセンシー様の管理・販路先の交通整理を行うチーム

－ショップマネジメントチーム

渋谷にあこがれる全国の女子中高生、20歳～34歳（F1層）の女性をターゲットにしたコスメ、カラコン、雑貨セレクトショップ、カフェの運営

ヒト・モノ・コトを通じ店舗から情報発信を行うチーム

SBYの強み 1. - SBY ブランド



SBY

が今までになかった強みに変わる！

SBYの強み 2. – Diamond Lash

つけまつげブランド「Diamond Lash」

▶2009年秋の発売時から8年間で累計販売個数1,600万個を販売している、日本のTOPブランド

つけまつげの国内市場規模は2014年の100億円規模、2015年で80億円、2016年には60億円規模に縮小。

→ Diamond Lashは現在40種類。毎年1種類以上の新製品をリリースし続け、一貫した製品イメージを作り上げ、戦略的な営業アプローチで取扱店舗数を堅持しており、マーケット全体が縮小の中にあっても業界TOPシェアをKEEP。

平成27年12月にDiamond Lashブランドの「コスメコンタクト®レンズ」を発売し収益貢献。

Diamond Lash 



イメージモデル: 加治ひとみ

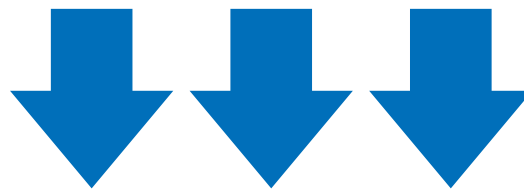
SBYの強み 3. – ブランド戦略 (Diamond Lash)

- ▶ ライセンス事業から自社で製造販売元となるメーカー事業になることで低価格を実現。
また在庫の安定供給、利益率の確保が可能となり ⇒ 国内外の販路先シェア率を拡大。



SBYの強み 4. – 海外ブランド戦略

▶海外ブランドとSBYが独占契約を締結。



帳合管理、価格競争の排除が実現。

SBYの強み 5. – 海外戦略（Diamond Lash）

▶今後の海外戦略としては最もつけまづけシェア率の高いアメリカで30%シェアが目標。

⇒その後、ヨーロッパ、ASEANを始め、世界展開予定。

Diamond Lash 



ホールセール事業.



G Three Holdings

ホールセール販売チャンネル



バラエティ
ストア



PLAZA、ロフト、ショップ
イン、東急ハンズ、ローズ
マリー、等

化粧品専門店
雑貨店



サンルージュ、シャンド
エルブ、パステル、オリ
ンピア、等

ドラッグ
ストア



マツモトキヨシ、サン
ドラッグ、セガミ、ス
ギ薬局、等

量販店・GMS



ドンキホーテ、イオン、
ヨーカドー、ユニー、し
まむら、等

大手流通
メーカー

株式会社 ファッションあらた

(株)大山、ファッションあ
らた、(株)井田両国堂、等

EC



amazon、楽天109ネッ
トショップ等

海外

ASEAN諸国等

～輸入ブランド一覧～

Diamond Lash



16
brand
PRODUCED BY CHOSUNGAH

ver.
22
chosungah

DUFT & DOFT

エンタテインメント事業.



G Three Holdings

JUJU/野田樹潤 マネジメント業務提携契約締結

中長期的視点に立ったマネジメント



“JuJu”のブランディング



- SBYコラボ含む“JuJu”関連グッズの製作・販売
- SBY主催他イベントの開催権利
- TV、イベント、プロモーション等への出演管理
- ファンクラブの設立・運営
- スポンサー獲得（大手代理店との業務提携予定）

野田JuJu プロフィール



レーシングドライバー名 Juju
本名 野田 樹潤（ノダ ジュジュ）
2006年2月2日生、東京出身
岡山県美作市在住
現在12歳、中学1年生

～メディア出演・掲載実績～ ※一部を抜粋



『SONY プレイステーション4』
グランツーリスモSPORT CM実績例

アプリ会員



SBY NEWS What's SBY? SHOP LIST SNS STAFF INFLUENCER ONLINE STORE DOWNLOAD CONTACT US

* は必須項目です。

お名前 *

フリガナ *

郵便番号 例) 1234567

郵便局名

住所



※現在、SBY会員10万人

SHOPからの誘致



店舗での販促をツールとして獲得
店舗会員制の化粧品を設備
店舗での会員との差別化を強化

オーディションからの誘致



アプリから募集



TVCM出演

海外からの誘致



『日・韓・英』Verをデフォルトに設定
アプリを海外にも配信
海外からでも楽しめるコンテンツ



人工知能（AI）導入

渋谷109店にて人工知能（AI）接客システム「KIZUNA（絆）」を活用した新たなサービスを開始しました。

受付対応 （コンシェルジュ）

受付業務、観光案内など人に代わって対応します。
聞き返しの対話で、精度の高い回答を提供いたします。

日・英・中・韓国語で店頭での接客を対応し、
インバウンド客へのサービス向上を図ります。

インバウンド 接客

トレンド分析

蓄積されたビックデータをKIZUNAに解析させることで、顧客傾向、トレンドやニーズなどが可視化され、商品開発やサービス向上のためのヒントを容易に得ることができます。

今後の活用方法

社内ヘルプデスク・WEB接客

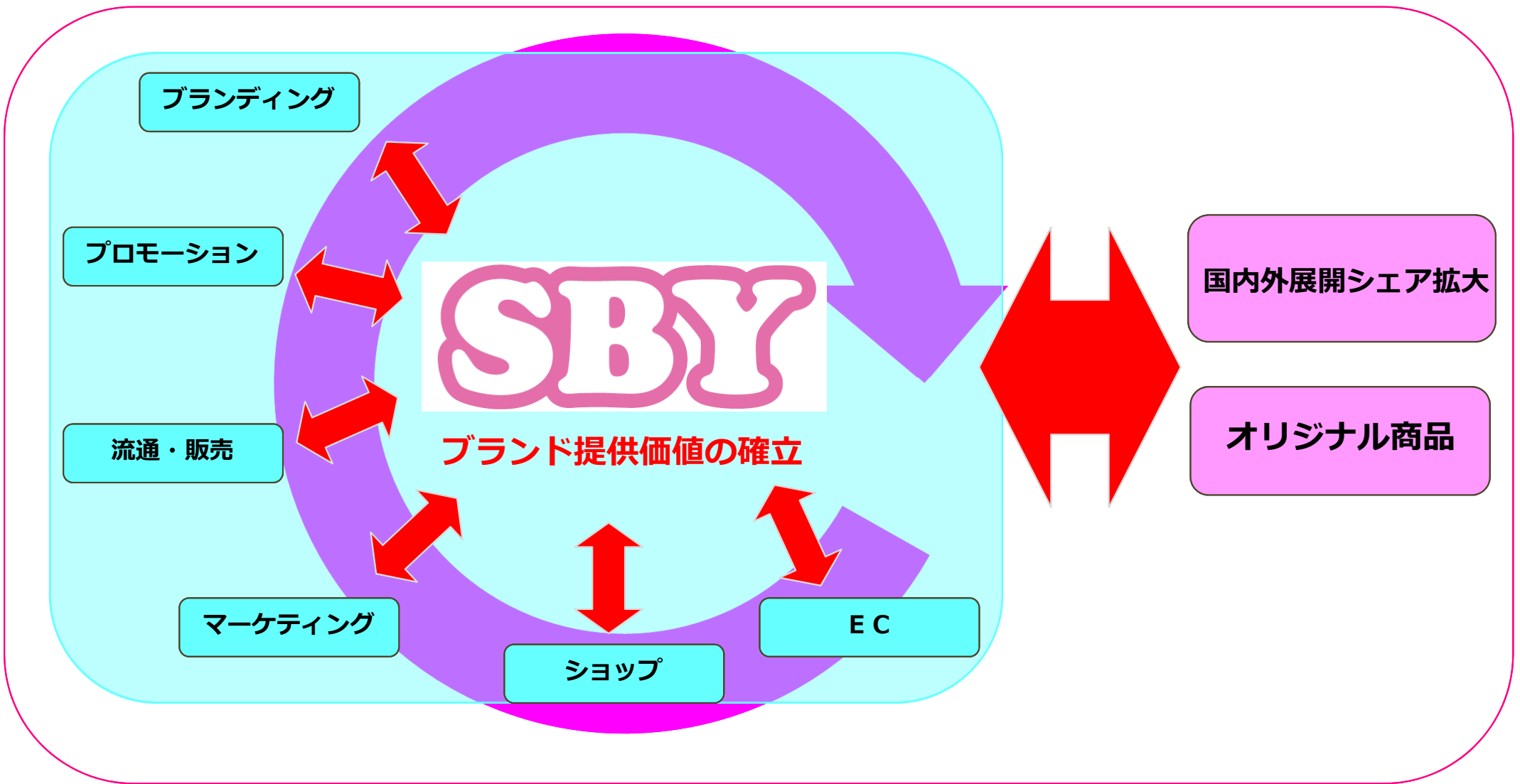
<人工知能(AI)概要>

タッチパネル機能、最新の音声認識技術、自然な会話対応が可能な人工知能接客システムです。

お客様からのお問合せに対して音声やテキストで対応します。

接客等の業務を人に代わり行うことで、業務効率化が可能となり、また質問された内容は全てデータ集積&分析・活用等を実現し、さらなるお客様サービスの向上に積極的に取り組みます。





絶対的なブランド提供価値を確立し、新たな商品・情報で展開する！

ご参考（第3四半期以降の事業）



株式会社Green Micro Factoryの事業概要

FATBURGER日本第一号店をオープン



G Three Holdings

「FATBURGER」は、ロサンゼルスを発祥とし、世界5大陸、20ヶ国で200を超える店舗を展開するバーガーブランドです。2018年4月28日から渋谷駅前に日本一号店を出店します。

「FATBURGER」が提供するハンバーガーの品質や価格帯は競合他社と比べてアドバンテージとなります。

- ファストフード市場は伸びています。

2016年、ファストフード市場は、対前年比で5%伸びており、2016年から2021年の複合年間成長率は2%の増加を見込んでおります。しかしながら、ファストフード市場は、消費者ニーズの多様化の影響を受け、これまで低価格競争を展開していた大手ファストフード各社で高価格商品を提供するケースが増えております。

- 日本では質の高いハンバーガー市場が拡大しています。

日本のバーガー市場においても、実際に米国の有名バーガーブランドが参入してきていることから、消費者は値段が高くても質の高いハンバーガーを求めている傾向が見られます。

- マーケティングキャンペーンは109エンタテインメントと協力します。

ウェブサイト、SNSプロモーション及びテレビ番組、雑誌、ラジオにおいて広告を行います。
また、ソニー銀行のクラウドファンディングも成功し、大きなPR効果となりました。



「好立地」・「高品質」・「ボリューム」・「雰囲気」が FATBURGERのアドバンテージ



G Three Holdings

好立地	一日に300万人以上が利用する渋谷駅前という最高のロケーションである、「MAGNET by SHIBUYA109」の7階に出店します。 「MAGNET by SHIBUYA109」では、クラブ感覚で食やお酒を楽しめる食の新スポット「MAG7」、スクランブル交差点を臨むルーフトップ「MAG's PARK」を展開します。
高品質	「FATBURGER」では、高品質な牛肉とフレッシュな野菜を使用し、コレステロールゼロの油で調理するなど、おいしさだけでなくヘルシーさも追求したハンバーガーを提供します。
ボリューム	「FATBURGER」は普通サイズでも食べきれないほどのボリューム感と、おいしくてジューシーな115gのパティやトッピングが楽しめる食べ応え抜群のハンバーガーです。
雰囲気	店内は、昔ながらのアメリカンダイナーのような空間をイメージしております。店内に50席を設ける他、店外にも飲食スペースがあり、店内外どちらでも食事やドリンクをお楽しみいただけます。夜はお酒を飲みながら、本格バーガーとお酒に合うサイドメニューをお楽しみいただけます。



質疑応答

本資料に含まれている数値目標等、過去の実績以外の記載については、現時点において当社が社内的に検討している目標値、及び入手可能な情報、ならびに将来の業績に与える不確実な要因に係る仮定等を前提としております。実際の業績及び業績予想は、今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

**IRお問い合わせ先
経営管理本部管理部
TEL : 03-5781-2522 (代表)
MAIL : ir@g3holdings.com**